



清俗紀聞

第五

書帙
卷之九 賓客
卷之十 羈旅
卷之十一 喪禮



301-5
301-5

清俗紀聞卷之九

賓客

○請客の時ハ茶飲當後日廉酒を進下度段案内の帖成多中免使を以て
 中入りの有茶有返事あは相伴れ向人も相かしく帖を以て中入
 其高日廳堂かしくびみ諸不表門まで掃除一酒宴の用意成るは
 請帖を紅唐紙をもち以楷書めくあも免貴人へ白唐紙に
 ぬく後小入は通套とあは後成用ひすつはも小厮を小者を使と
 あく持せはるはあつ ○相伴の向人の中入を請帖かき事か
 帖の文面小儀具其人を請て其を信成嬪居とて紙小志くや遣す
 在上客とて位貴人人を相伴小拓は上客小對して免礼あははた
 客方とて茶礼小使者あはは自身事り謝す事か一茶案内此當日

賓客

謹卜某日敬具杯茗奉迎

高軒側聆

鴻誨伏惟

惠然早臨曷勝榮感之至

右啓

大德望某號某姓老大人 臺下

眷晚生某姓名頓首拜

急遽に於て故障ありと此ハ謝帖を以て先候を以て謝以て振請此後ハ自
身ハ謝以候令延引すかとも候を以て謝を以て事なり

○賓當日持来此土産物なり貴人へも先て見ゆかとも執費等持来す
事ふし進物と両三日以て前も候事なり又たわづらふ事あり其席に事ふ

より品々不同ありたるとへ壽筵中と壽麵壽桃を湯餅會満月等

の筵中猪肉鶏蛋小児之のねらものら此帽子胸当等賤時の請酒み

魚肉猪肉あり以て時新の菓子等あり ○廳堂かきりつけ先四面小蜂猴圖

蜂猴ハ封候と同音也實候 或ハ祝意の文字又ハ花を以て掛物をかけ上之額をうち

掛りの左右ハ祝意の文又ハ貴人有徳の人此書見ふ聯成ふけ前も高卓成

居卓幃を掛卓此上も宣徳ある香爐小香を焚錫の燭臺一對小紅燭

を立此瓶一對時候の茶花色々取立ていけおれ中以下の書中香爐燭臺を

封筒正名式

某姓名老大人帳下

恭謝

前席盛饌

某姓某名拜

書函式

因ハ唯掛物の苜唐金燒物等此大ニ形分ハ籠ハ似代多分ニ生
切れり卓障々紅紙子羅紗等中造系金糸はく麒麟兩竜蝙蝠等
を縫落し布裏を用也

數日不面

足下屋梁顔色無刺不在念也

足下倘亦念及鄙生乎請移

玉趾早降話叙衷曲即刺并聽

履聲不一

某字某姓老長翁

台電

某姓某名具

某月某日發

覆答同

別來數日真若九秋之隔忽辱
寵招恨不能飛
左右適緣冗羈姑容片刻即當趨
命此
覆

某々老長兄台展

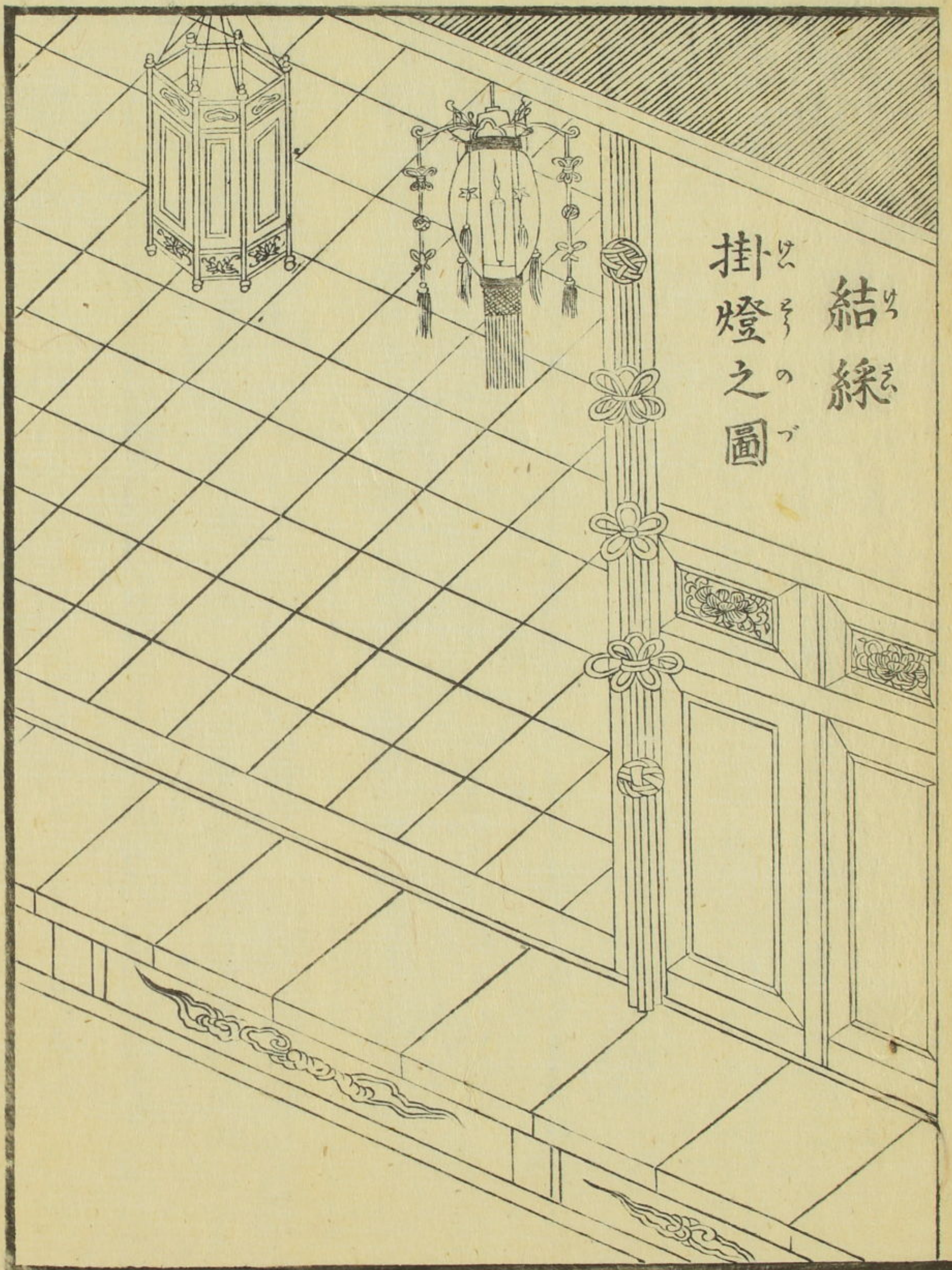
某姓某名

即刻

○廳堂の面上框み紅緒綿めく水引を張る一間二間を居みに結綵一下の
鋪毛の上之疎く紅繩を赤く冬向寒冷の多し廳堂を用ひず暖閣とて
下の板敷めく四方とて小風の漏れぬやめあつひたか座敷も毛繩成

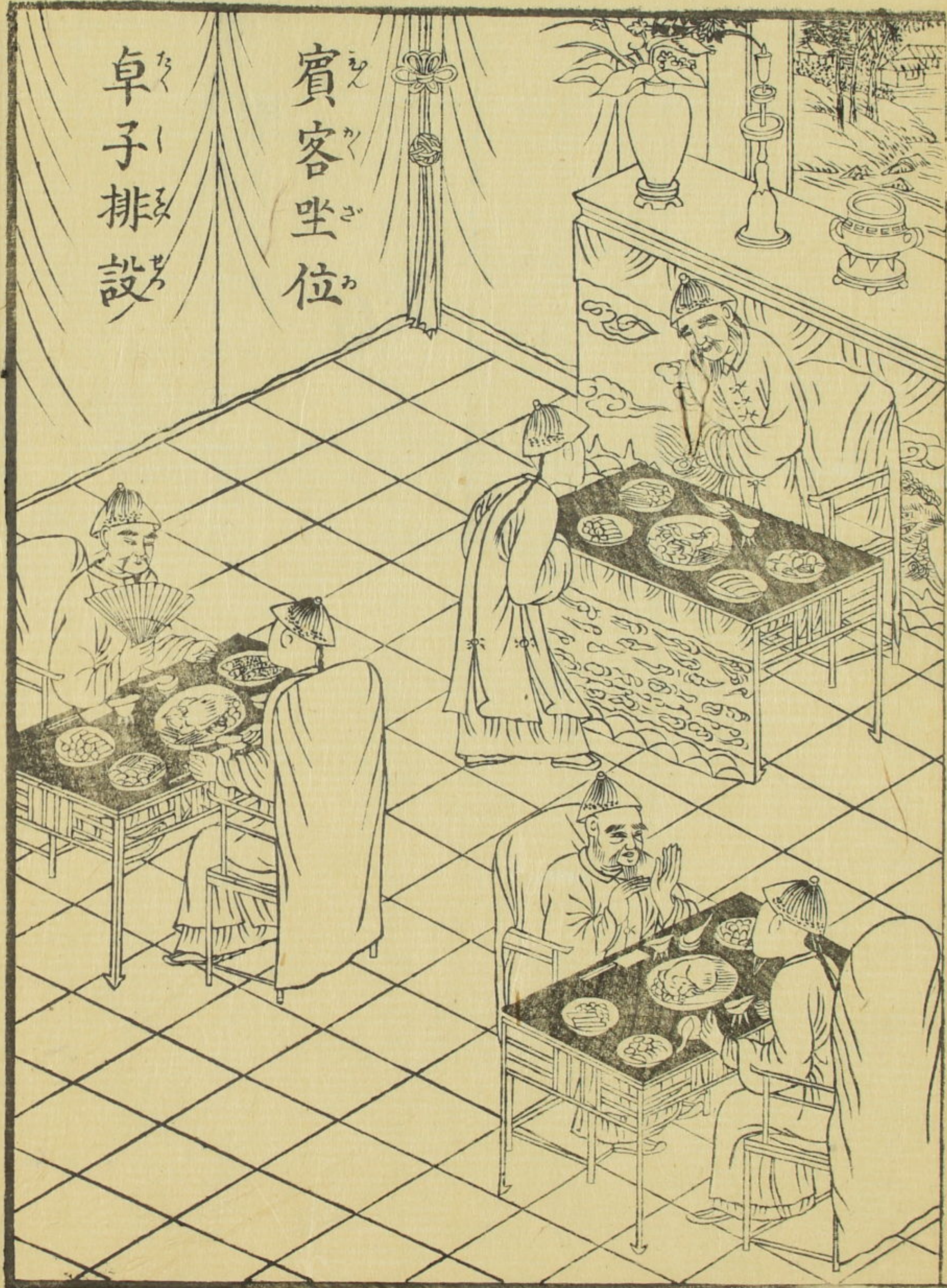
鋪く若暖閣をわが廳堂鋪毛の上小たんぼを赤長之毛繩成を結
綵く紅緒綿めく牡丹花の形を造び下ふ正座敷に椅子を並上ふ
座褥二二三の字糸赤く人数應へ正座敷上客は座席を設け兩側り
相伴人の数も應へ椅子を並同く座褥をのり廳の内画蓋
中諸所小紅燈紗燈羊角燈耀糸燈れ成り軒先も赤かき燈
籠をくけおれ椅子のむきと廳の方位も赤く座褥と紙子天竺絨
等ほくまの綿成入し椅子は寸法小か多て造る夏向と佳紋席香
牛皮めくほく紅燈ハ紅緒綿めく張たる燈籠紗燈ハ紗めく張る
死人物等成綿ふ羊角燈ハ羊角を煉る硝子れぶくして張る耀
糸燈と硝子の玉を糸にけりぬれ色くまをすけて燈籠をまらふ
りの形を四種の燈籠つとて形ハ四角六や丸等むくわら

結線
掛燈之圖



○座席と正面を上座と右座次座と左座三座と以て正面は居べき賓か
 時へ右座と左座とを次座と以て○上面も真向かあるか下座のか
 屏風ありは大いなる挿屏をさすか卓子を並べ花瓶も花を生か
 種々の造り花をかへ並べ○廳堂の側書房小閣等あり正面は文字
 の掛物成りけ卓子に文具書画の巻物書籍珠玉の細工物等
 をかざる並べ○婦女一同招請の節は内廳か席を設け傍付此の外廳
 同○勝手向ら惣食應の多しお座し料理の用意をさす主人新し
 献立成す事なり料理に一定の献立あり六碗八碗十碗十二碗あり
 六碗茶の何れは只點心にあめく義志あり八碗の何れは茶の何れ
 也茶の何れは茶の何れは茶の何れは茶の何れは茶の何れは茶の何れ
 料理の品数多くは次第あり飲食の節も詳あり

賓客



卓子排設
賓客坐位

○高位貴人招請の席卓子一御上客一人別の卓子相伴一人或は二人亭より下座小侍中以下は卓子一御に向客一人あるは二人も茶の方に相伴一人あるは二人同年おはく貴人おはく卓子に羅紗等に多敷の代紙は口方極成おはく其之料理は排列を中通りければ食物は用ひば卓子おはく牙筋酒鐘磁碟調羹を傍に持おはく箸を一せんは紙おはく揚枝紙一おはく活字おはく紙は口角おはく折上之福壽等の文字を彫り文字は下おはく紅唐紙を用ひ酒指口一は皿一但つて客は敷おはく卓子おはく同年おはく幾人おはくして卓子二御三御五御おはくかゝる

○官民ともに皆卓子におはく食事をあし高位貴人を招請するは食器は何れも焼物茶碗茶碗皿等あり食法は先右におはく箸をとりおはくみ下しておはくこれ内の食物肉類を喫し終りて箸を収めは紙おはく汁

廳堂下首

排設



をすくひ吸ふ汁を吸て後又肉を喰ふ事なり初め汁を吸ふ事なれあり
 又此菜數出以時々一碗おん以茶此菜ハ引くを其内小客の喫すは
 事なく好き菜は其より引すゆ致し並事もあるたし引致するもあは
 菜の出す方上ゆゆく以茶の菓を喫ふは失禮なる九者焼物等何方
 とも著を下し何方より喰ひむかふ不定なり菓子其外品く出さず時上
 客をも相伴人へ挨拶す事事も形し出物掃う上相伴より上客へ向ひ請ふ
 と挨拶は其時上客と請ふとさう喫は又相伴同卓せられ賣物出さず我
 著を以て互にさう成擺り上げ上客請ふと上客著成下し是を喫は
 冬向客の常の厨下より持来の同物れぬたえ其賣物其蓋を平置以持
 出さず卓上其蓋を蓋しぬみらして持入る
 宜しき刻限みられれば好時候請過來と使を以て中遣し客來時主人

賓客

衣服をあらうも先帽子被着し衣常の振此新しく花簾なる成ちるに
賓主ともに礼振とて外み形も色等も論ずる事か官人とも朝見大紀
の外朝服成者も事か一民間みたる人貴人高位み見ゆかた常
服の外礼振なり客貴人かれ門外近近ひみ出中通りみ廳堂口より出
客もも二雙方一揖 揖はあひを相腰を ちりり人今日屈駕不勝感激と挨拶す
客もも今日相擾不必多煩と挨拶も及び主人も成挨拶 挨拶はあひを相腰を
且請廳上坐とち先みたら案内は客ももみ廳上み登か主人ハ下
座み居く請上首座とち客不敢と再三禮讓して椅子のわらわらにある
相伴の者出それバ客椅子ををを止し成挨拶と怒罪とて相伴人も挨拶
ち挨拶す雙方禮讓ををを天色和暖好熱阿凉快冷得緊好天
下雨又違尊翁好麼尊體設有違和麼長久不得拜候怒罪々々
おぢを色く挨拶あつと 挨拶も煩雜と郵儀多事を 互み請坐とち客先椅
子み生は相伴人も側の椅子子み生は客貴人も互み相伴人敢て坐勞は
ち侍中通過成ハ何成坐しと下りの椅子子み坐は定て之上茶
又ハ献茶とてハ客不勞賜茶と挨拶す僕茶成盆み茶せと一ツはち
出か 茶も無茶紙茶碗に入湯をけて蓋成覆ひ持出か茶碗 主人座ををを茶を
請取客の茶も持は客もとち兩手にてのち成たのち茶碗を持たの
ちいへく蓋成取椅子の服も是衆客も逸く茶成自分も持はと皆挨拶
あ主人挨拶して請用茶とてハ上客も相伴人も各辭儀をして蓋成喫
あ主人も喫は茶碗ををに持か請收茶碗とてハ僕盆を捧げて出か
あ主人も茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを
茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを
茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを

おぢを色く挨拶あつと 挨拶も煩雜と郵儀多事を 互み請坐とち客先椅
子み生は相伴人も側の椅子子み生は客貴人も互み相伴人敢て坐勞は
ち侍中通過成ハ何成坐しと下りの椅子子み坐は定て之上茶
又ハ献茶とてハ客不勞賜茶と挨拶す僕茶成盆み茶せと一ツはち
出か 茶も無茶紙茶碗に入湯をけて蓋成覆ひ持出か茶碗 主人座ををを茶を
請取客の茶も持は客もとち兩手にてのち成たのち茶碗を持たの
ちいへく蓋成取椅子の服も是衆客も逸く茶成自分も持はと皆挨拶
あ主人挨拶して請用茶とてハ上客も相伴人も各辭儀をして蓋成喫
あ主人も喫は茶碗ををに持か請收茶碗とてハ僕盆を捧げて出か
あ主人も茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを
茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを
茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを茶碗をを

賓客

八

すふとれの禮（儀） （儀） 次

竜眼湯扁豆湯等の点（儀） 兼（儀） 銀或は錫（儀）

おとのじを添（儀） 出（儀） 人途（儀） 勸（儀） 客（儀） 僕（儀） 是（儀） 此（儀）

客方の僕烟包（儀） 等（儀） 持（儀） 我（儀） 人（儀） 此（儀）

互方（儀） 僕（儀） 是（儀） 持（儀） 客（儀） 遣（儀） 煩（儀） 火（儀） 生（儀） 客（儀） 向（儀） 此（儀）

客人多（儀） 兼（儀） 務（儀） 唐（儀） 烟（儀） 盤（儀） 草（儀） 烟（儀） 請（儀） 進（儀） 書（儀） 房（儀）

少叙と挨拶すれ（儀） 客（儀） 書（儀） 房（儀） 入（儀） 暫（儀） 話（儀） 客（儀） 僕（儀） 此（儀）

出（儀） 卓（儀） 子（儀） 廳（儀） 堂（儀） 知（儀） 人（儀） 客（儀） 此（儀） 請（儀） 上（儀） 席（儀） 客（儀） 多（儀） 謝（儀）

の席（儀） 小（儀） 次（儀） 客（儀） 卓（儀） 子（儀） 此（儀） 僕（儀） 錫（儀） の酒（儀） 瓶（儀） を持（儀） 此（儀） 人

是（儀） を上（儀） 客（儀） 卓（儀） 子（儀） の上（儀） 此（儀） 楮（儀） 以（儀） 成（儀） 起（儀） 酒（儀） を盛（儀） 客（儀） 多（儀） 謝（儀）

とろく楮（儀） 以（儀） 成（儀） 子（儀） の上（儀） 此（儀） 兼（儀） 衆（儀） 客（儀） 酒（儀） 成（儀） 成（儀） 人（儀）

相伴（儀） 此（儀） 我（儀） 楮（儀） 只（儀） 盛（儀） 人（儀） 我（儀） 楮（儀） 以（儀） 成（儀） 上（儀） 客（儀） 此（儀） 請（儀） 干（儀） 也

挨拶（儀） 干（儀） 楮（儀） 以（儀） 成（儀） 傾（儀） 客（儀） 見（儀） 客（儀） 共（儀） 待（儀） 楮（儀） 以（儀） 成（儀） 何（儀） 也

飲（儀） 客（儀） 上（儀） 菜（儀） 時（儀） 僕（儀） 兼（儀） 持（儀） 客（儀） 卓（儀） 子（儀） 此（儀） 真（儀） 中（儀） 亦（儀） 請

菜（儀） 挨拶（儀） 此（儀） 客（儀） 禮（儀） 此（儀） 客（儀） 出（儀） 每（儀） 客（儀） 多（儀） 謝（儀）

此（儀） 客（儀） 人（儀） 客（儀） 此（儀） 不（儀） 敢（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀）

人見（儀） 合（儀） 外（儀） の名（儀） 氏（儀） 取（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀）

此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀）

此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀）

此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀）

此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀）

此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀）

此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀）

此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀）

此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀）

此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀）

此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀）

此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀） 此（儀） 客（儀）

酒醉肉飽不必再費心と後投する人豈敢無甚可口菜蔬怠慢得緊請
寛懷暢飲と茶数にみ焼出く忘心又醒酒湯を出し茶代にみ焼出く茶
を出して酒代を正定式の茶数出らばは客請收席と後投する人
早酒を了れなむおりの酒代を正定式の茶数出らばは客請收席と後投する人
多服と一向喫す事あるはと解退するをうらみも格別酒量の
清き者少く飯代喫す事も飯代を了れぬ卓子を収む振舞ひ酒代専ら
すむふ少最初を飯代りる本膳のさる事あり

○卓子を収めて後銅ありひい真塗の面盆み湯を収く墨みこせ僕出
て廳堂の側み並客へ請解手と客をさく水をはくひ
身を洗ふ振を湯をわかす事あり人ありひをれ僕を湯をさくひ
取りたりみありひをれ僕を湯をさくひ元の椅子み座した
おとれ茶代一通と出く回干を出は
四千のゆ葉菓子菓物類極玉子等此
はの湯み

十錦盃とふ大盃を主人持出
酒を添うて客めすむ客領一卓み相件人領不並等ありて
回干れらの菓子類看影を嚙ひ相合見はくひて客をさく多蒙盛設
實不敢當好收盃と挨拶する人豈敢再請ありて再三もを座席
を収む回干知れとて又茶代出く茶を飲わたりて客をさく主人いひて
今日相擾蒙賜住看多謝々々要告辭とて暇さびと主人豈敢
今日特蒙光臨多慢々々とて互み一揖し客をれ揖して相件に向
つて多蒙款待とて挨拶を止む相件人も措きなく豈敢々々とて
送る如く客請留歩と笛を相件人へ廳堂口を送る客主人みひいて
不勞遠送と挨拶すむ主人再容少送とて門外まで送る客馬駕
籠めくまはる人措きなく請坐騎請騎馬と挨拶客もを措き

多不敢請回と自ら人又強く請ひ客得罪と云く其石成申く馬駕籠も
客を待てる人毛門内(引)と云ふ其官人かた行ふ事あり

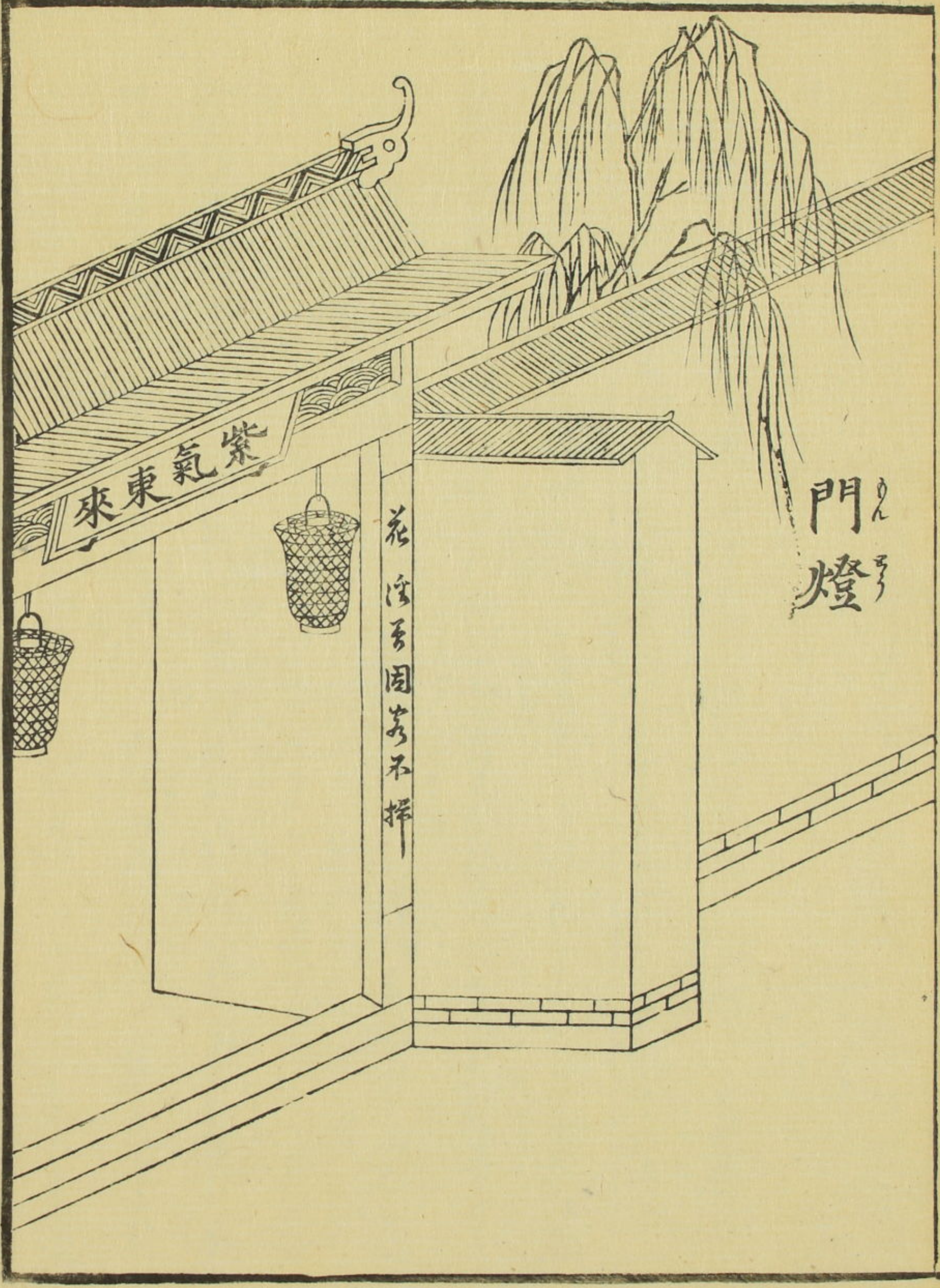
○座並ら上客才一位お坐し一年長の人才二席お坐し一年つたれ其次お坐
す若親類一座お坐し母方の親類成其次と父方の親類を下座に
し父叔舅先生お坐し一座お坐し子侄婿父子等の椅子お坐せ茶
挨拶を受けて後お坐し又高位貴人官何れも長と勿論を官たつとも
我より排斥の者長つらひお坐し一年長の宿之は之く敢て坐せ宿之成
廳の正面お坐し下座お坐し之宿之を座成命して側お坐し相
の宿之と對坐して見ゆ尊長の宿二人ぬくの席の正面真向一席右の方
二席左の方二席と唱くお坐し侍座此席の右の方一席左の方二席又
右の方二席左の方一席と唱くにりゆく宿之若向ひの時右を貴位

たをる位と定む但いりくおの上賓たつとも間成隔を成陽等事

○昼客ゆく暮方限と客海々時ハ其晚相伴人成と親友なりお坐して
才の客は首尾よくたし且て恭喜と祝しつ止も廳堂お請し酒
宴を備け飲酌は止成洗厨と云 厨は屋敷の料理の同成あり残物をさるる
残物みく酒宴を催はるるも残物の用はず別成用意して之を
若夜客お坐し洗厨ハ翌日侍の相伴人の内お洗厨お残る居らもあり
席もあり ○客席お鼓樂成或は做戲をして款待す云々席中ゆく誦
ふ事なり廳堂の外庭へ戲臺を掘り誦らむ誦と賢人の集るた系不又
と閑運の場お坐し古文の肉を撰り出成鼓樂等の鳴物をさるる席
中ゆく相儀ハ 戲臺の圖と祭礼の
客席は夜分わりし衣門に燈籠一對かけく灯

賓客

士



客貴人あはれはるく其明日也礼み以 昨蒙光駕蓬壁生耀特
 來拜謝と不密なる在宿あはれ堂み請ふ見之昨兼厚待盛設多謝々々
 かぞへ挨拶して茶を出し替へて禮活して門庭を差立宿せされ礼みとあらた
 なる紙に次は者へつひわたして又客方も明日又と一あり此内礼み由々
 雙方そとに礼みゆくとたハ紅唐帝此名帖を持ゆ親友等の請酒の礼み
 名帖みねよ字貴人へのかゝる名帖を用由
 婦女ハ親族の外も修々事あした之親族たると是男女同席すか事家
 婦女のかゝる内廳内房も酒宴をあら
 氣禮其外諸祝言或ハ見舞等以茶も密みハ主人在宿りハ廳へ請
 見人茶代出親しき人あれば有合の菓物二三種も出して挨拶
 席とのまは廳堂口まで行くか相違此賓と對座も目ん白

賓客

○吊喪の客の親友にあつたれば見ふ事なく若親友あつたれば若室も請
 見由帰すもわづらふ事なく吊客も日六主人一對一揖して哭し
 不淑と稱す人言れして哭し特蒙屈駕多謝と互み礼義
 手子持子み請し終結みねふ○吊喪も支配頭役等へ別して
 執事あつたればあつたれば吊喪の客は着振も常かたふ事なく帽
 子の赤盤代除くまで○法會の節の親族あつたれば別親の朋友
 ちと招請は迎會意の素菜あつたれば外礼儀應對の言葉は杯の酒宴
 み等かたふ事なく鼓樂器拳等ありて酒を事を得る
 ○平人貴人み見ゆるあつたれば披露は名帖を出して見ゆふと貴人
 名帖をとり見ると何某かたふと時小的使是と言ふ服を披露は事
 なく拜揖の貴人の品位みよると一拜と揖三拜と揖叩首四拜と不等

高俊貴人腹光の節の節の門外み出迎へ揖して入ると披露は請々といふ客
 答れして主人先み大門の真中を通ると案内は客は時時通ると通て
 行儀門の中扉を穿て中道と案内は廳堂み至ると主人廳の外み
 多知請々といふ時客はみ聽み通ると正面の椅子へ坐せると主人廳み
 進んで下座を揖して見ゆ客椅子み坐しおがうと披露は請々といふ
 跟從の儀門外を附流米と前して儀門内へ入ると方は注管人儀門外へ
 出く跟從の人を請し外座を坐しむ儀門を平人製造すふ事を得て店
 有衛門の外伸冷等の家みくさふは遠く民間いたる富家豪家民
 こころ大門二門をりやく儀門を禁制する大門の扉ハ半に穿て二門を
 扉を閉く事なく兩角門を出入せ客來の節の二の門の扉は穿てさ
 して客は通れ民間も高俊貴人來降わら事稀あり若九十歳以上を



門前
迎客

老人あつちの切徳あり或は孝子順孫等めく格別くわくべつの款けんりつて朝廷てうていよ
 と旌賞せいしょうめあつちのさか家いへめい官人くわんにんと来儀らいぎあつちの一度官人いちどくわんにん来儀らいぎあつち
 を共家ともいへめ儀門ぎもんを造つくる事免許めんきょあり是こゝに官人くわんにんを通とほじた先まへはははは
 閉して官人くわんにんの来儀らいぎをうに開ひらくなり ○ 高たか位ゐ貴き人にんめあつちの先まへ生せいか
 老人らうじん等らうあつちの門外かどへ出でる事あり其外そのほか朋友とも親類しんるい等らうあつち
 を廳堂てんどう口くちを近ちかおもつちと又また並ならに廳てんへ通とほじ並ならに見みゆかもつち
 かは親類しんるいと廳堂てんどうへつち並ならに内房うちむら内室うちむろへあつちもあつちと人ひと在あり有あり
 此こゝに婦女ふじよ見みゆを應對おうたいを親類しんるいの外ほか婦女ふじよ見みゆか事ことあり
 客きやくあつちの馬うま駕か籠かご等らうあつちの事ことあり大門だいもん茶ちやめく下げ茶ちやへ小せう厨くへ
 附つ添そ廳堂てんどうへ並ならに小せう厨くと堂どう口くちへあつちと人ひと堂どうへ登のぼりたると水みづ邊へ側わき
 小せう厨くへあつち並ならに退ひき耳房みみむら小せう部ぶ屋やあつちの厨く下したへあつち休息きゅうしは氏うぢ同どうあつち

賓客

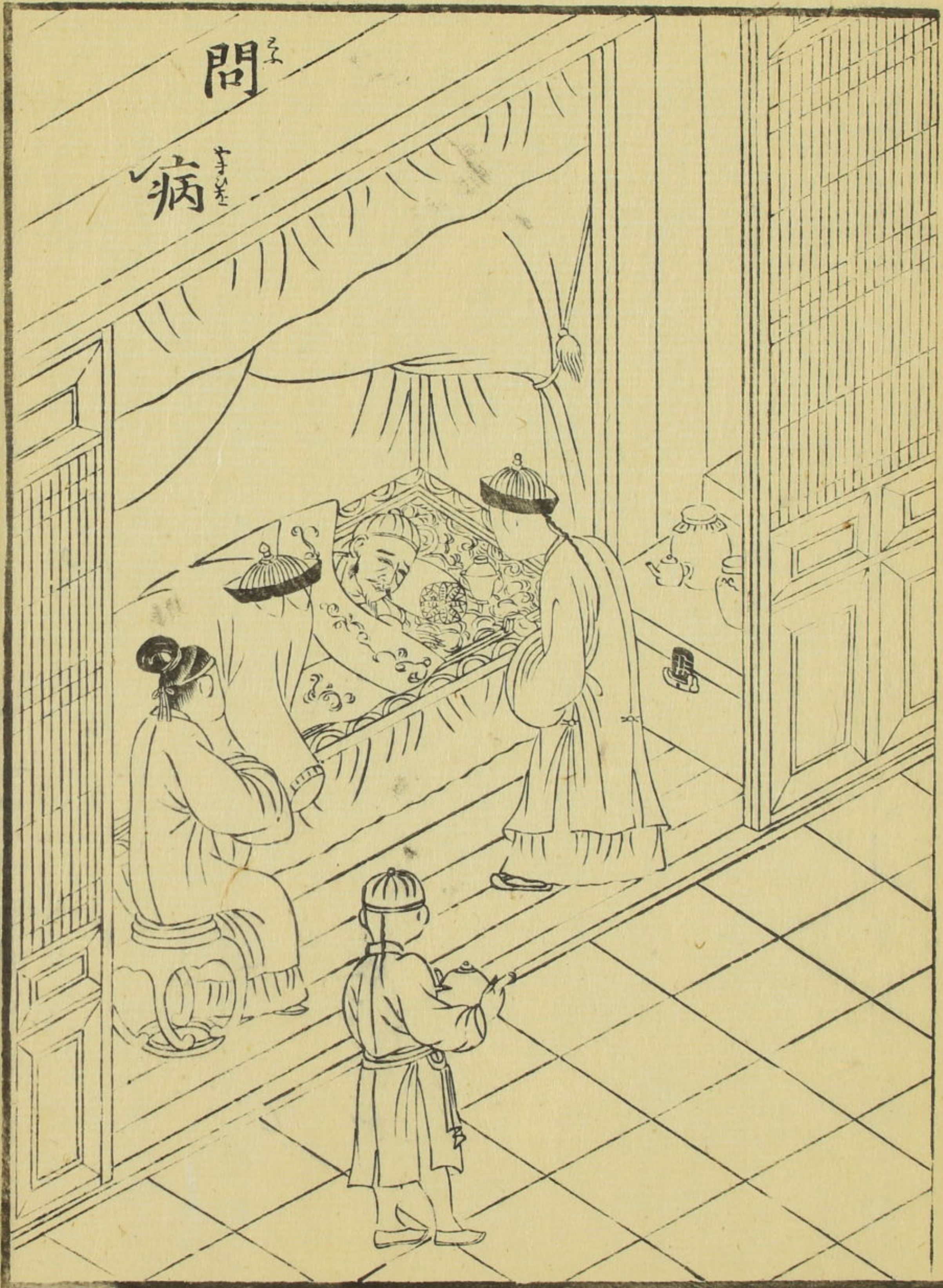
供教人連事奉り小者一人あり二人あり不時の訪問等みまはるる
門番人居止ば小者成遣一某相公在座と問ふ
門番相公在家請進と云く直みまはるる連は某門番あり小者を内
み入且問む若し人正有甘ぬと問は彼方れ僕出きたり東人不在家と
不賓僕みむひ某特來問候と云ふ自身某の自身の云ふと若し又供成連一人
某と云ふと何れ自身たのぶと問ひ何れ時と某翁在座某兄
在座と姓を呼んで参る内より少付主人或は奴僕出まはり對面主人不在
家みまはるる奴僕も居合せたは女房ゆく内房は布簾の内より
人不在家是那位と不親友あり何れ某と云ふと云ふとき用事ありとば
云はれ見落されば其候と云く直みまはるる婦女み對面せし親友ありと
云ふ内房一通ふたつものより云閣下座受等の割衣なりとみ番人取

次等なり門番人も民間みまはるる大戸形と云はれ奉り
官府向と馬駕籠大門前みまはるる下等大官たりとも諸衛門み大門
内みまはるる事を待す馬駕籠大門前みまはるる下等時
涼傘旗執事等の道具喝道先立徒士解供する門前みま
たみまはるるなりと云く何れ人門内み進み入ると何れ親隨
四人附添入る此時主人出成廳堂登り時親隨と云ふひ登り入る人の
たみまはるる以て總管應等れ高き人より命じて退かむ時み堂を退
きて耳房み入休息を足ら民間官人來候の式あると某官府き
たは官人同士對面の節に親隨堂み登り奉る儀門を附とみ
心は座に退くなり門外みまはるる供する人門内み入を待く諸道具
を架子み挿はる諸官府門前み通具成白隸房足輕被屋に入り休息は

實客

を賓に候落敷刻みおろし又ハ遊戯等あり席に延引すれば供儀
とすかも有り又らる方より酒飯成出はもあり或る下部格くお近
の賣賣止店等には酒飯を喫すかもあり供儀とて親隨の席に足
非る方より酒飯等出は酒宴お招請したるに耳房お侍は各々
門番人々賓客を見く内お入何官來到と告知親隨員に
のりく二人お達は大門の諸官府ともに貴の内門戸を穿きけり儀門斗
穿てけり儀門の高官あつて通ふ事あらば儀門を通ふ程の官來候
お止ハ門番門戸を穿た直お耳房(躲避す方より官人の通に門番
目通へ入る事を得ば大門番人も肉(告知)甘直に耳房(躲避す門番
ら大門皂隸儀門皂隸とて番人別あり勿論民間中へ奴僕
の敷成番人に居るは是ハ大門儀門と別なり事もなく一人おく事なれり

○衛門内の儀式は讓等其事の詳お知り候見及び軍及びたる儀事なり
病氣の良上賓訪来かお子孫伯叔兄弟内出入候(請)應對は此に
病氣お承り候方お賓客を挨拶おし方不敷とて直お承り候
お承り候方(及)お止は讓して病氣お請見(お)時病氣の側へ
椅子を備け候人の座の上お坐し衣服外套を着し帽子を戴き賓入
坐の位お候お怒罪とて此を承り候方病氣を訪候椅子お坐し
暫く候後お子孫伯叔兄弟等側にお侍り候活守賓客有とて病人
對し保重とてお知り候主人を挨拶し候禮して得罪不能送とては賓客
請便とて別々病氣重く起座不自中候候お侍り候外外套を脱
お子孫等賓客に向は怒罪とてお賓客の色お承り候病氣を訪候後お及の寸直
お子孫等廳堂にお請し應對は勿論至親の友お承り候お承り候病氣お承り



○初て人を訪やハ紅唐紙の名帖を持門亦至貴人高位の家ありハ門
 子とて表門の番人あり是名帖を投一某特來拜望と違一終るべし
 頼入る門子名帖を受取主人小達以主人遠くと思ハ廳へ請すべし
 門子出請進上座とす案内して廳亦時主人出迎ハ見ゆも有
 又廳へ請す並知く見ゆもあり主人出迎は客一揖して久仰高名特
 來拜識と主人豈敢有失迎近とあり言れして互小叙話主人請坐と
 つく椅子を主人客不敢と礼讓して坐主人も座して談話終る貴人
 の方亦見ゆ時客解く坐せ主人迎亦出亦事か主人廳亦出椅子
 亦坐して待客亦見ゆと見ゆとれ椅子を放し言れ主人客見へて侍立一請
 坐と主人座して僕亦椅子をさす客亦をわし先坐々々主人客再三
 礼讓して側亦座して放て對座せ主人居かぐ客成堂に拓くと上目の

賓客

知者ふく唯時候は草木の花を色く多分挿し置まてやう

清俗紀聞卷之九

清俗紀聞卷之十

羈旅行李

○江南浙江等の諸省は旱路二十里も三十里も

と同一但一里は此方の六町弱みあるか

とて書役一五人又其村の百姓五人或は十人宛ま役を取是を鋪司兵と云

又京師の堤塘とて不役取あり一省とてと殺け兵少都々十八ヶ所ありて京

師の所用向等を其本省通達するのみ其本省武官擧人を遣し勤奉せ

るも京師とて本省までの路程遠き所は十四五人近所は十人計も相詰り也

勿論文書等通達の宜あはれ勤番の擧人弟を驛站を経く其本省ゆき

ふかり驛站と八十里ありは白里に車馬の継場あり是ハ九欽件

羈旅行

件 上司より 公文省次以て諸省へ通達し又々欽差小差小差より近通行の爲に設

ちある馬次分撥す所なるを継場の里数遠きより腰站とて向此継

場を専ら馬匹此度並み爲す譯を設け並みなく村落の内場不置

の民家を用ゆるを惣じて勘合とて此方の御證文の如く物あり大差ハ兵部

差官有て右勘合を持行小差等ハ其官員自身も持行を出立取馬牌

差立り至ふ所の譯站此牌の數合せ人馬代用意し其も持本勘合と引

合取散差小差より起馬牌なく自身帯る勘合代取り以て取馬牌より時

人馬を出さしむり以て取馬牌の大小に従て馬匹の定額あり或は百匹ありハ百匹

定む此額分れば一人足を驛逐る不致書後取人ありハ二人あり是を驛書

と云馬醫一人あり獸醫と云又馬夫あり譯言ハ一匹の養へ所の馬六十四匹あり

馬夫八人あり一人の養へ所ハ八匹あり此八匹の中官座とて主人の養へ

き馬一匹次小緊差馬とて急用早打用ゆる馬二匹包頭とて駭馬を附る馬一

匹又小差馬二匹あり大官あり其込荷も自分の系下とて散差馬二匹あり

右馬夫八人の外四人ありて養ひ方此助を勤む定數の外も人馬入用の附

其羽の百性中付く是を出さむを民馬と云り民商の人馬車船は皆相對

を僅く養ひ此譯站の與ふ所あり民商の省毎行とて之の數軒あり

多是めく僅く以て民間の先觸込債帳と云ふ事あり諸民私用の旅行

より行くとて牙行までゆくも多し其後日僅く泊すを僅く切あり右債帳

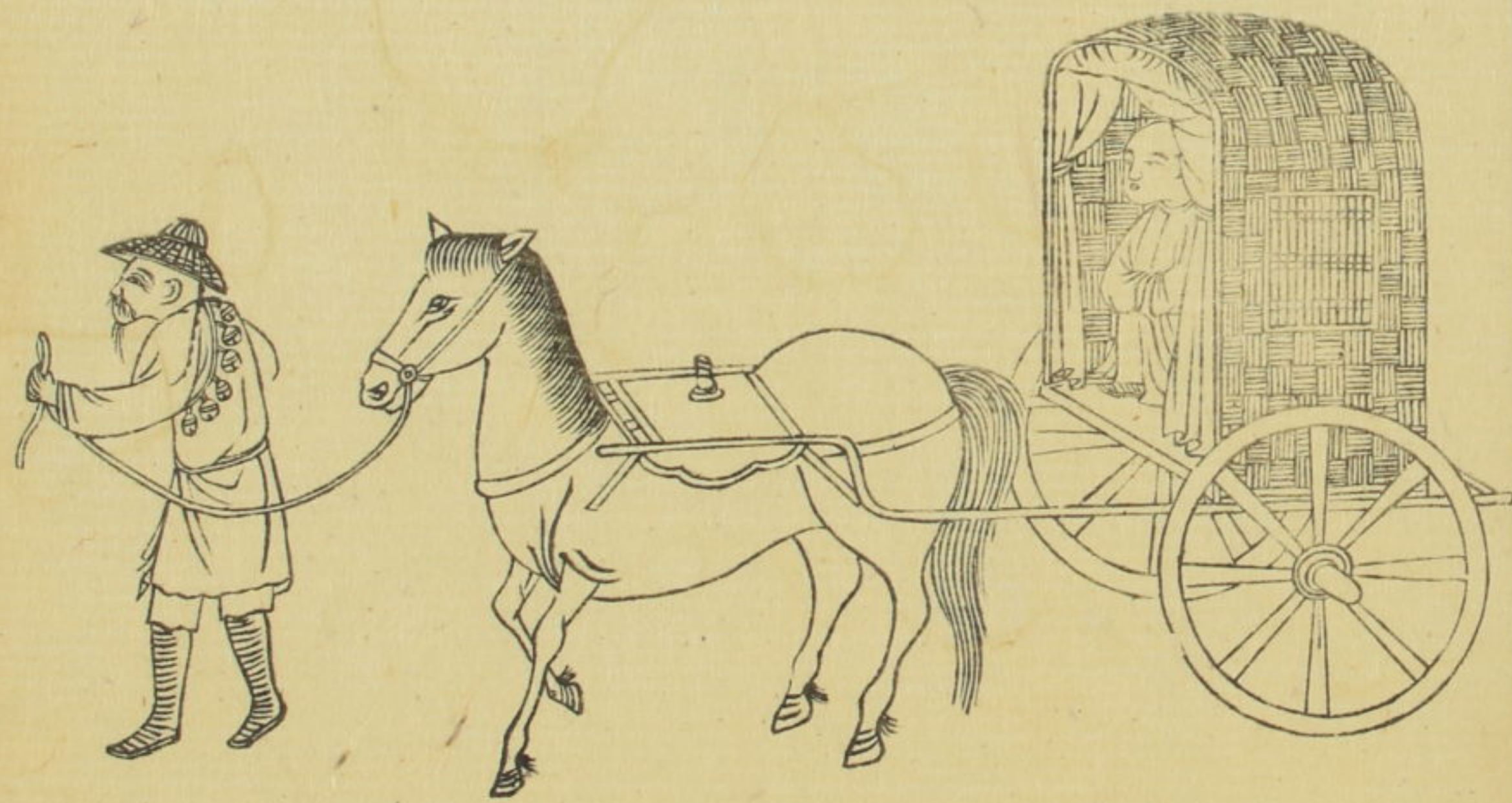
驛馬終日僅く切三之驢馬二里一文の積とあり但車の課二匹分の積め一日

よりあり人足を終日百文を爲すは二百文あり荷の重さ九貫目と定む足八重

き荷物と驛馬を僅く課馬の肩より物重さ十貫目と定む轎子ハ一日六

あり但轎子に大小あり民商用ゆる如くは皆小轎あり又驛轎とて轎子に

車轎くるまこし



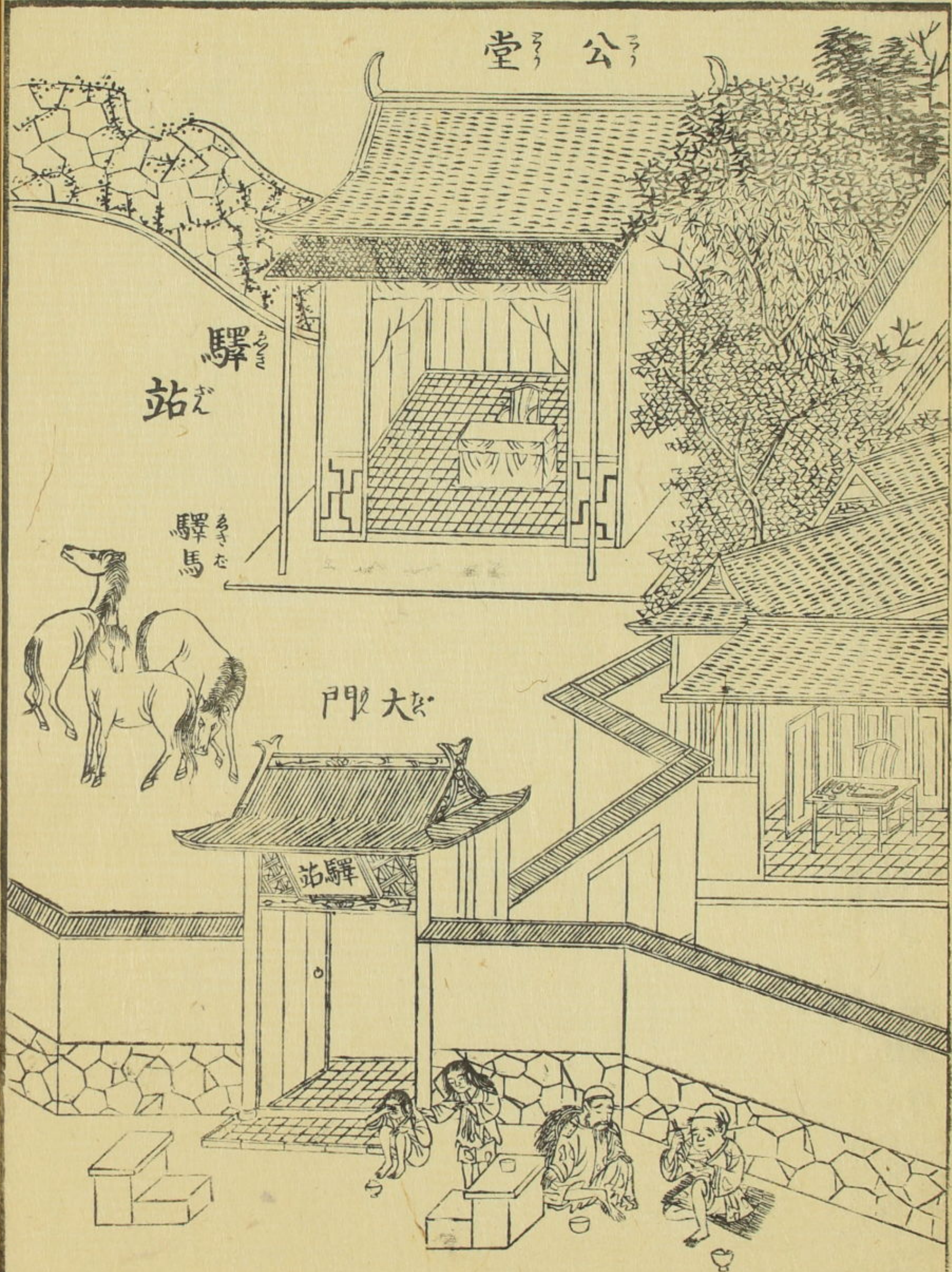
堂公こうどう

驛站えきざん

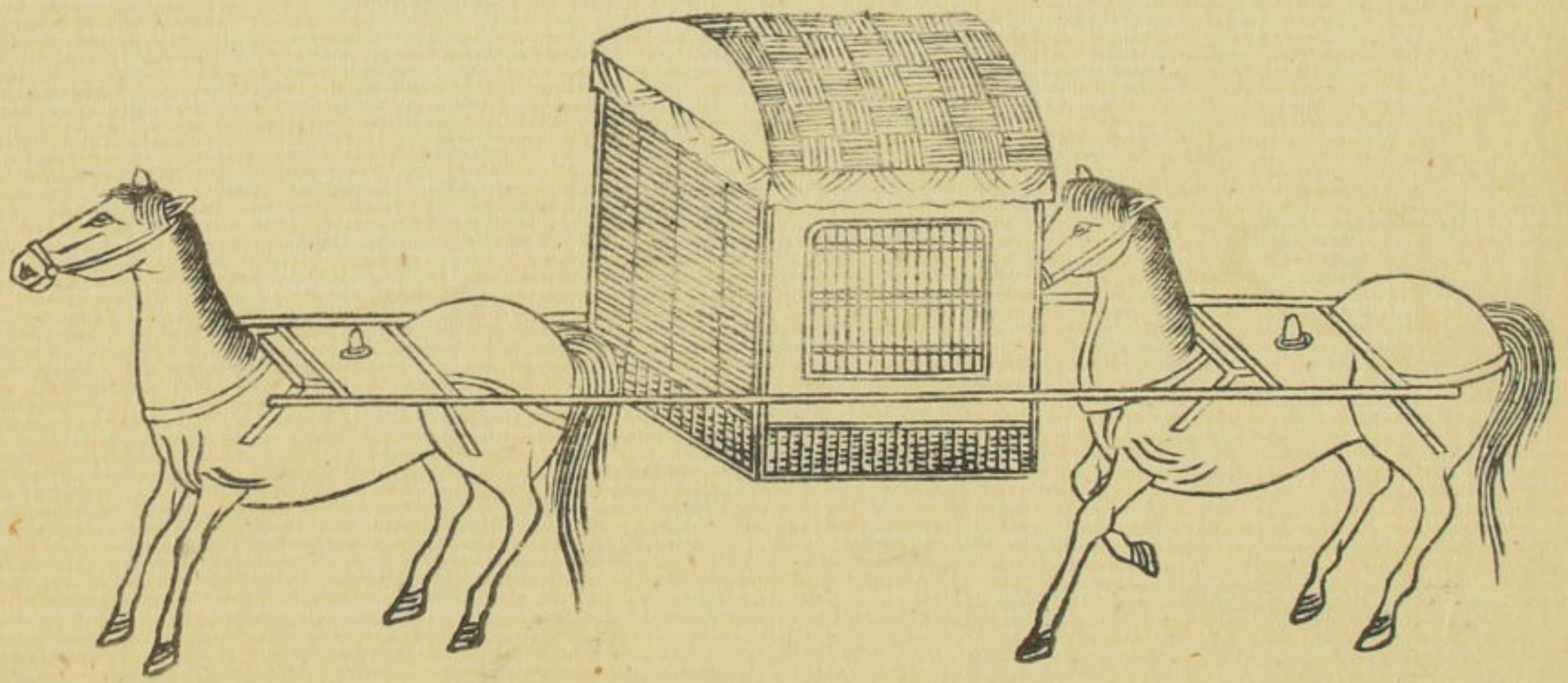
驛馬えきま

門大だいもん

驛站えきざん



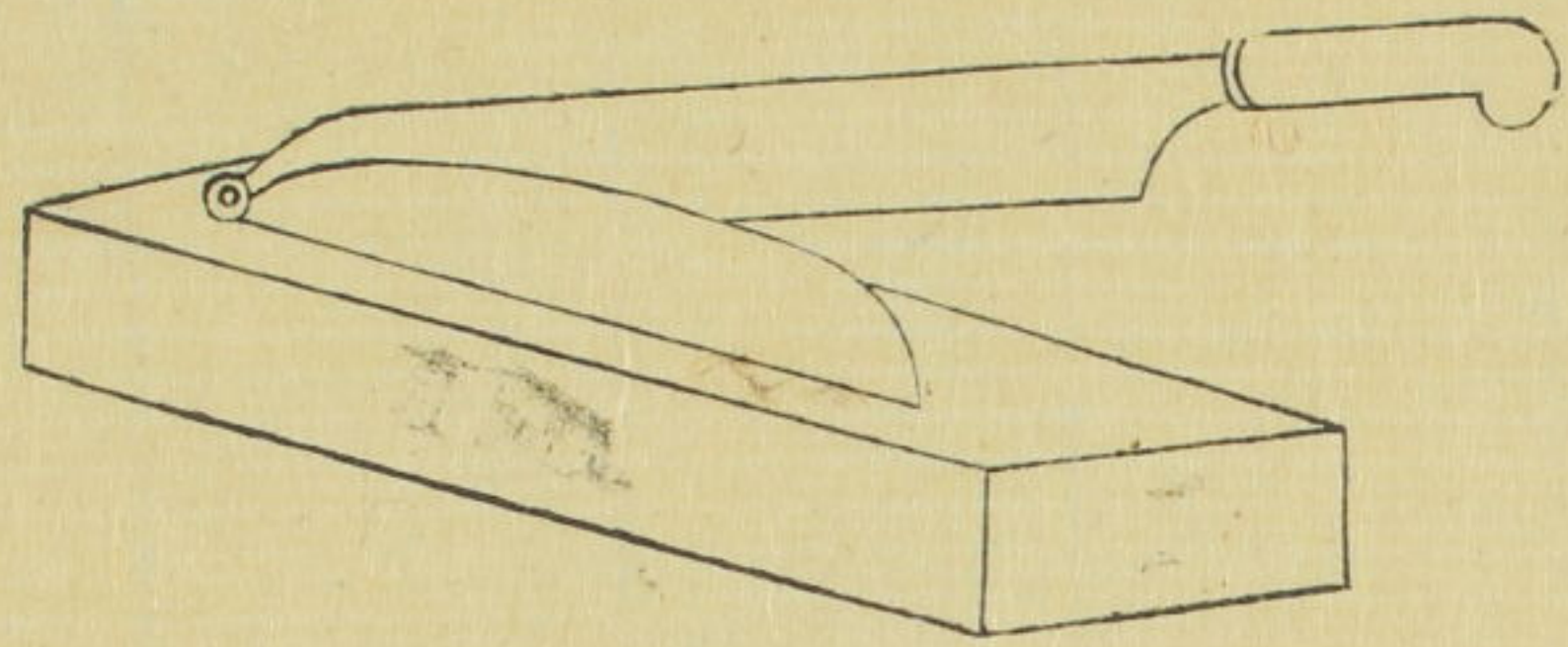
騾轎



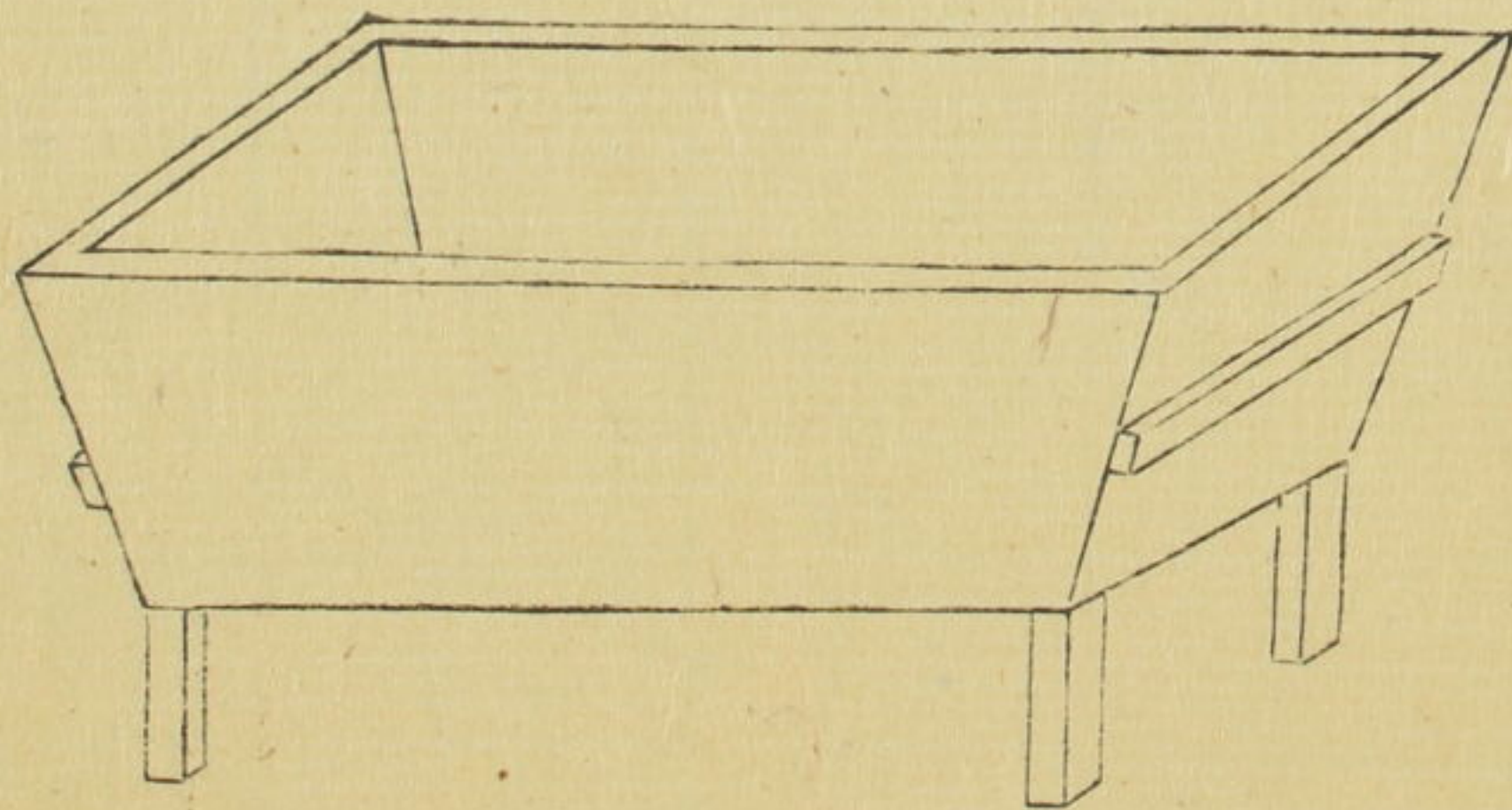
小荷物成附馬二匹を以て足を負うむ人と共に乗る荷の重さ八十貫目
と定む一日の料八百文あり

○驛站小荷物道の道具あり狭板と板二枚成ぬく公文を挟む板あり鈴袴と鈴の
附も小轡あり足ら差官補司兵等も持しむ此の音成聞く次の継場まで
用意すふ為あり綵鎗と総の付ふ鎗油絹と油引ふ給あり
若帽と竹笠ありび蓑衣等の兩具立外時計常燈紅問棒と若丸蓑
あく除きふ棒二本回曆と帳面あり若中あけ時刻を記し歸ふ時点成
掛消を軟絹包紙と絹の風呂桶あり公文等成はむたをあり又馬具或は
削と馬の草料を切黒豆成者釜洞草ふ桶等あり舗庭ふ狭板鈴袴
若帽蓑衣立外常燈等あり

剃きり
くまの
りざまり



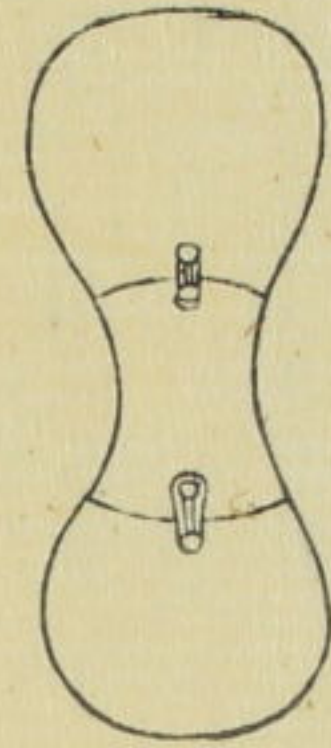
槽さう



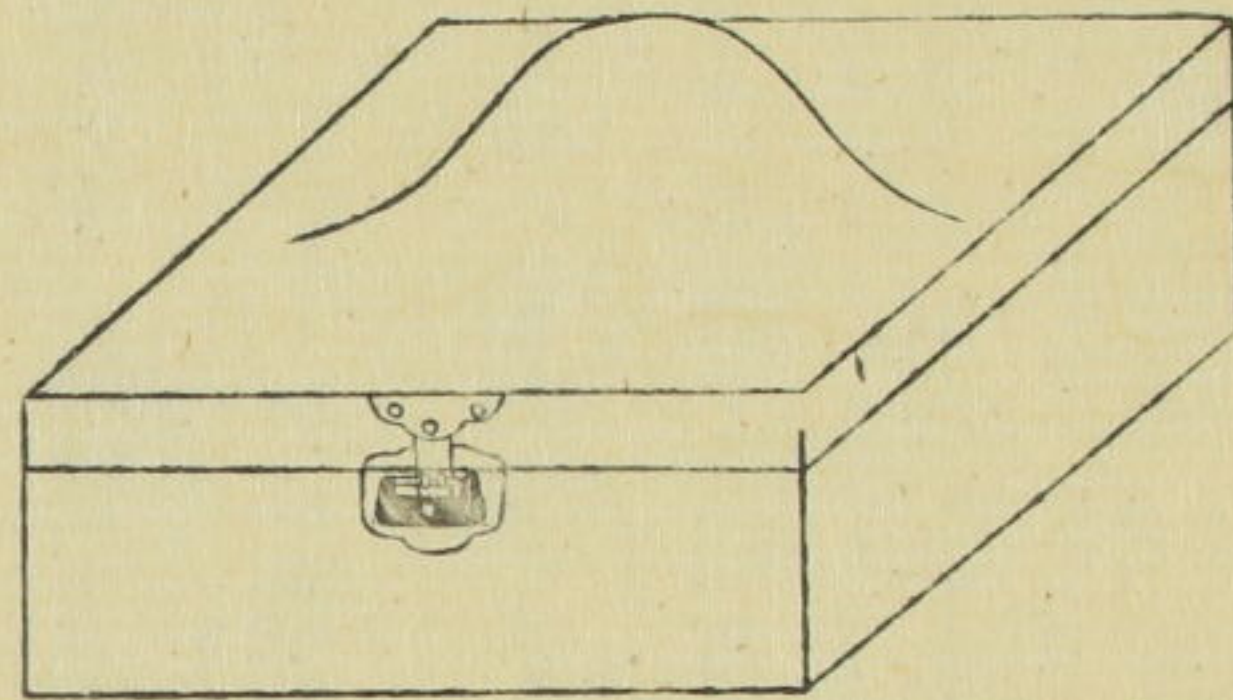
鬚ひげ

五

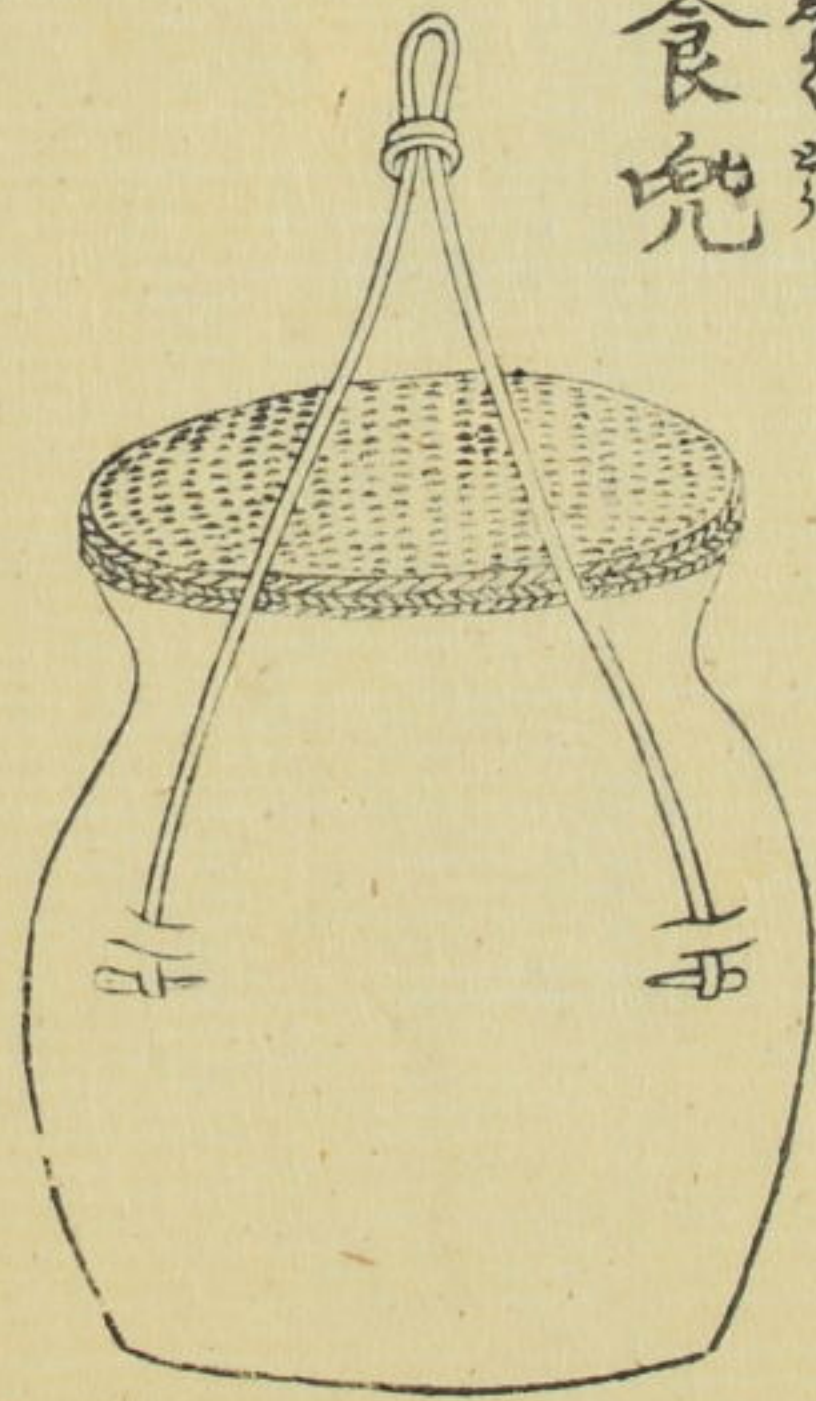
搭連たつれん



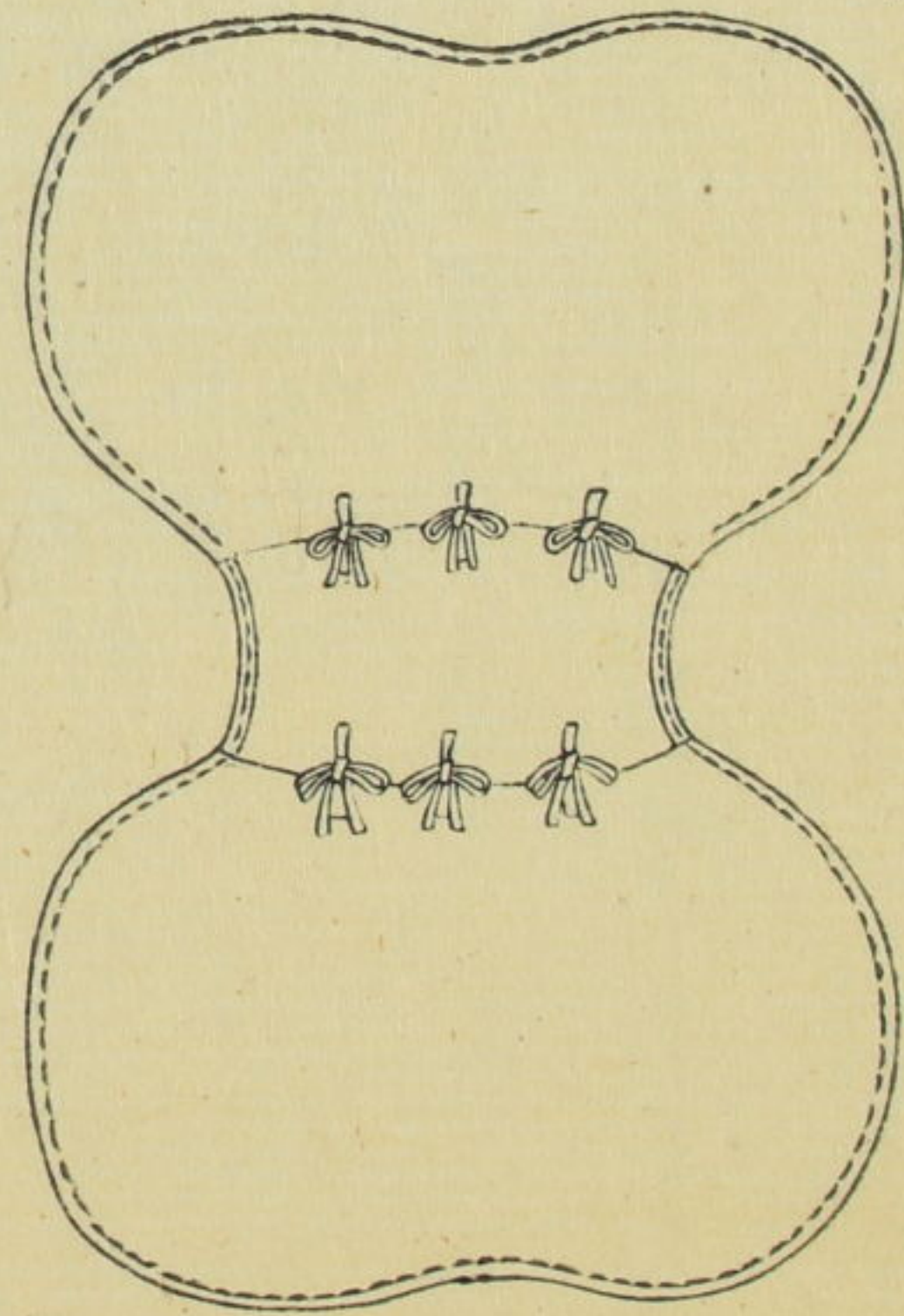
盛甲箱せいこうばう

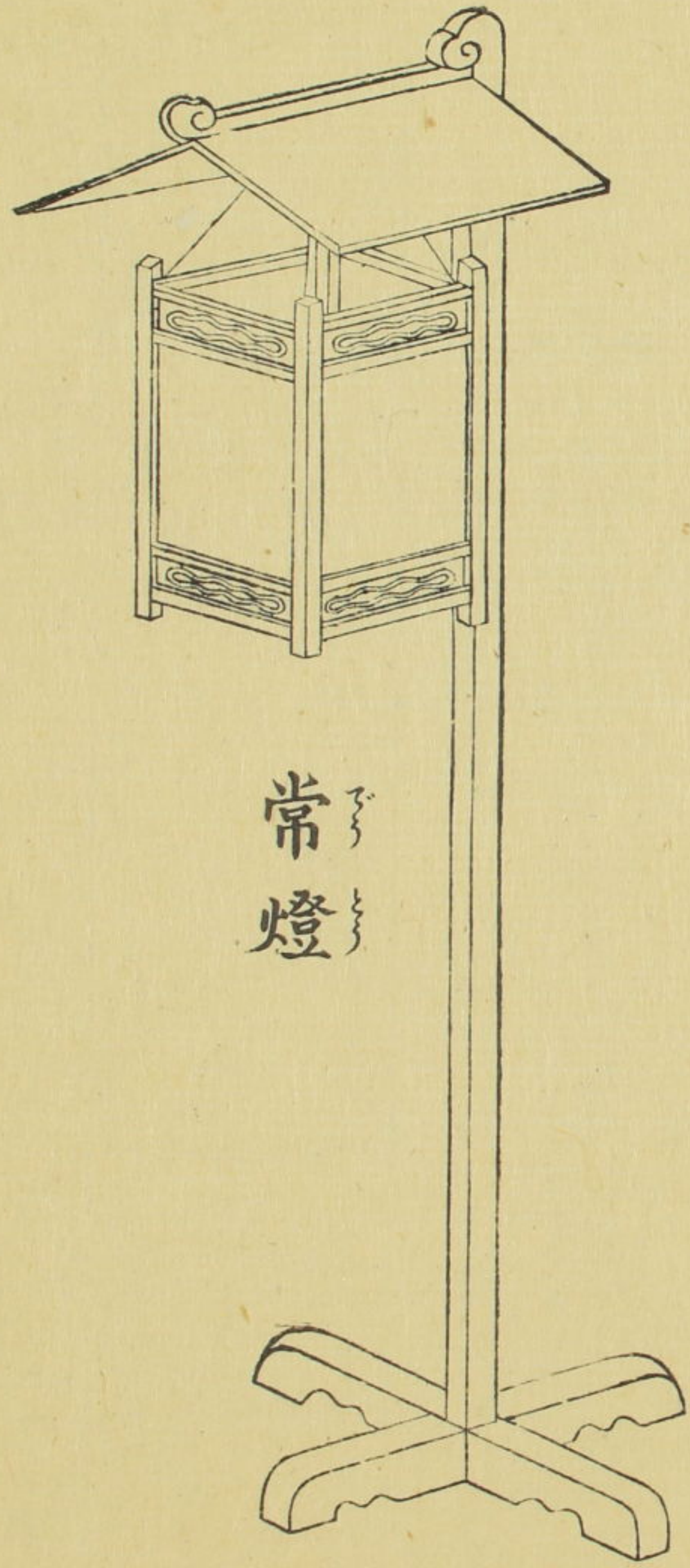


食兜しょくとう

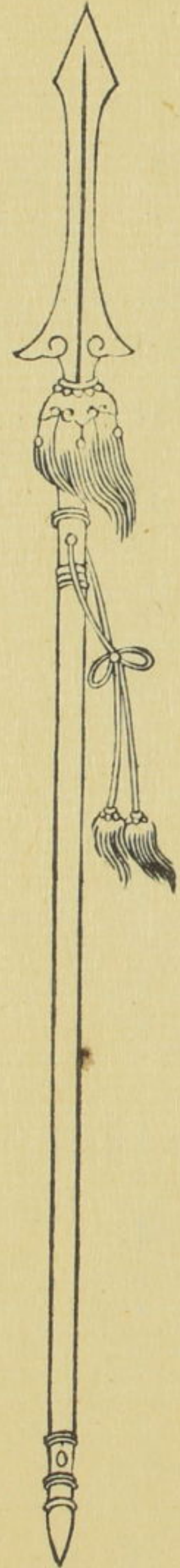


被囊ひのう

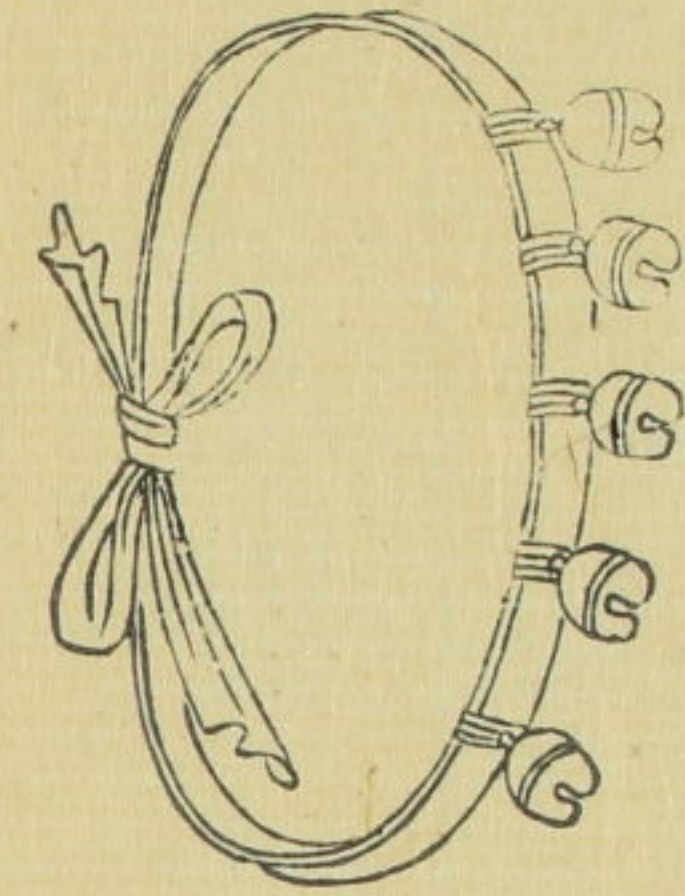




常燈トコ

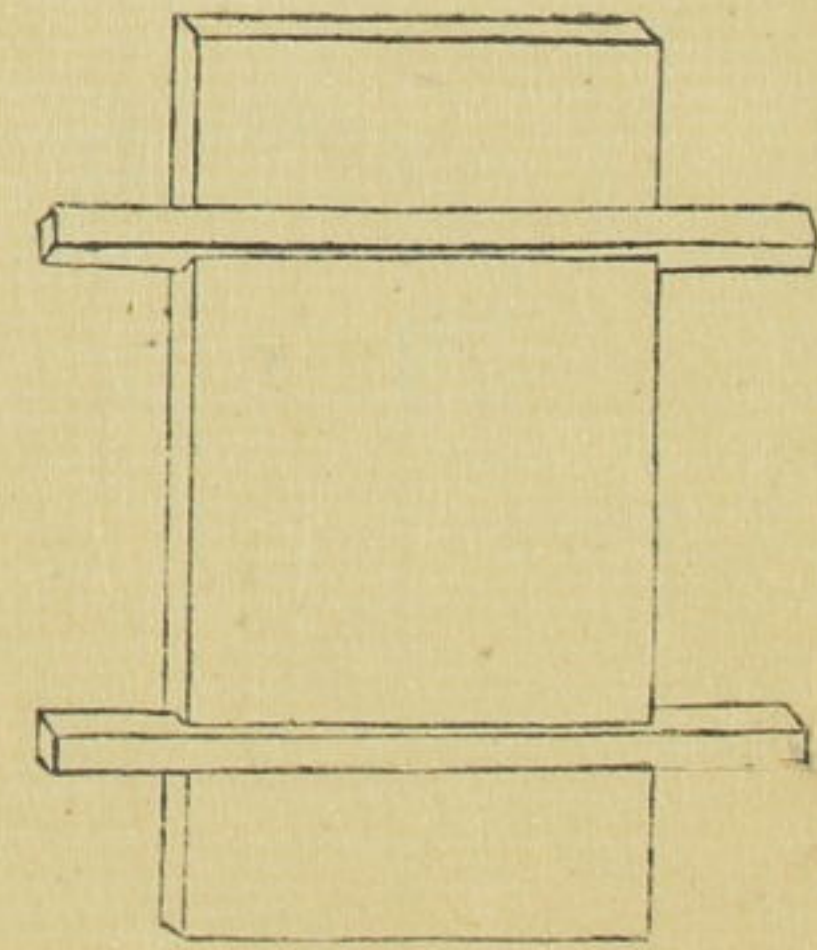
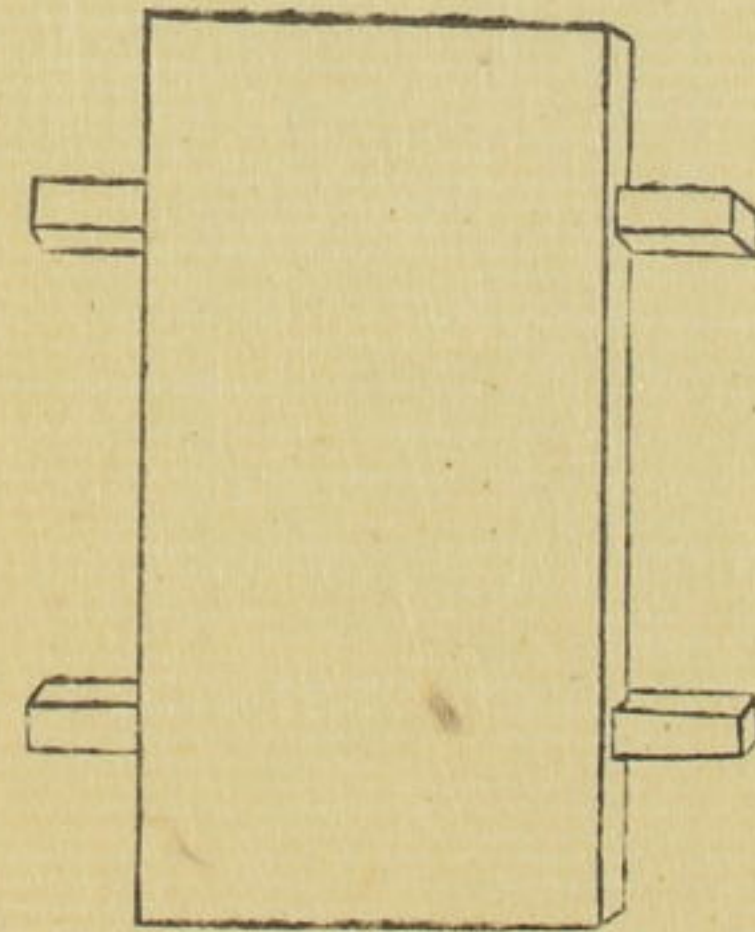


綏鎗スヰ



鈴スズ
襷タビ

板イタ 狹ヒサ



○里甲馬と邊鄙の州邑驛站の設けられたりゆくの地の民馬及び通行せしめしめ備ふまじし里甲とて百姓頭分のもの支配して出に固くまじし里甲馬也

○官人公用通行のものは自身と起馬牌をさし出さ此方先簡のさし出たものあり其官人出ま二三日以内家丁一人をさし出通行の驛站とて右牌を授見すしは驛站の書役其文面帳面抄きまじしは抄牌中ら此牌を應いとて人馬の手當致むるなり

起馬牌式

某官某姓 為某公務到某處於某月某日起程一路所有應用夫馬合先遣牌知會為此仰役前去着落該房吏書照依

後開夫馬輜楨名數一一喚備用過領給工價毋得遲悞須至牌者

計開
輜幾衆 馬幾匹 夫幾名
右牌仰該房吏書准此

年 月 日

○大差の欽命公用の大臣或は異國の朝貢及び督按の使者等を不随後の茶馬等ハ其官應じて等差あり九一品の大官ありとて是表向の官府らあり主人の用馬と散馬とを随後の茶馬とあり九匹あるより其餘は皆自分入用ありと連ふなり惣して大差小差并拘はる用あり通行の時ハ人馬の賃錢拂方は其為小驛站は官府より手當あり事あり

○緊差との軍機等急を急を急進を急時切の早打あり武官の内差官と

多文書成等て 運進往來等不役あり 足等九一三枚六百里行と定む

○火牌 ホーイ 火の速あり 与極急形不所用向不所用不文書あり 足と公文此上小箱の

羽成糊ゆく 粘不眩と急あり 如随ひて 羽成一枚宛増但一枚より七枚とあり

足を火牌文書とあり 右の緊要の事不所あり

○小差々 遠方の文武官とて 所祝儀交あり 諸伺事あり 下付成京師入を以

等の事を不足等一日九百里餘路程あり

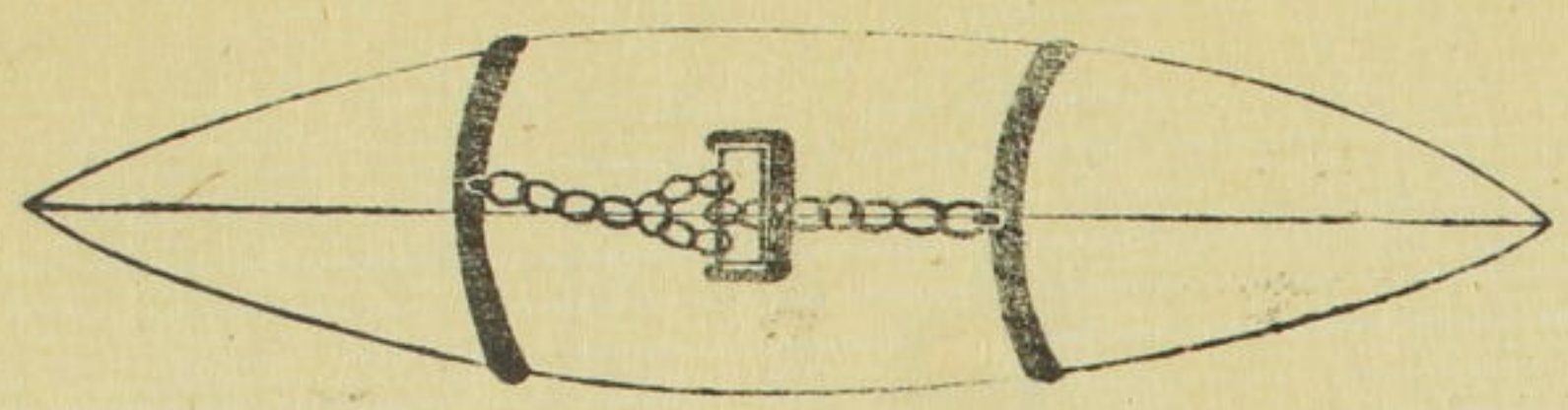
○散差と 勤勞多き人又と父母の喪あり 却幸とて 綿里八疋等の人を恤

人馬を給す不成不

○省縣と 運上等の銀子上納の節と 銀鞘も 銀成むとて 小差を以て

澤站より 宿次を以て 送系形り

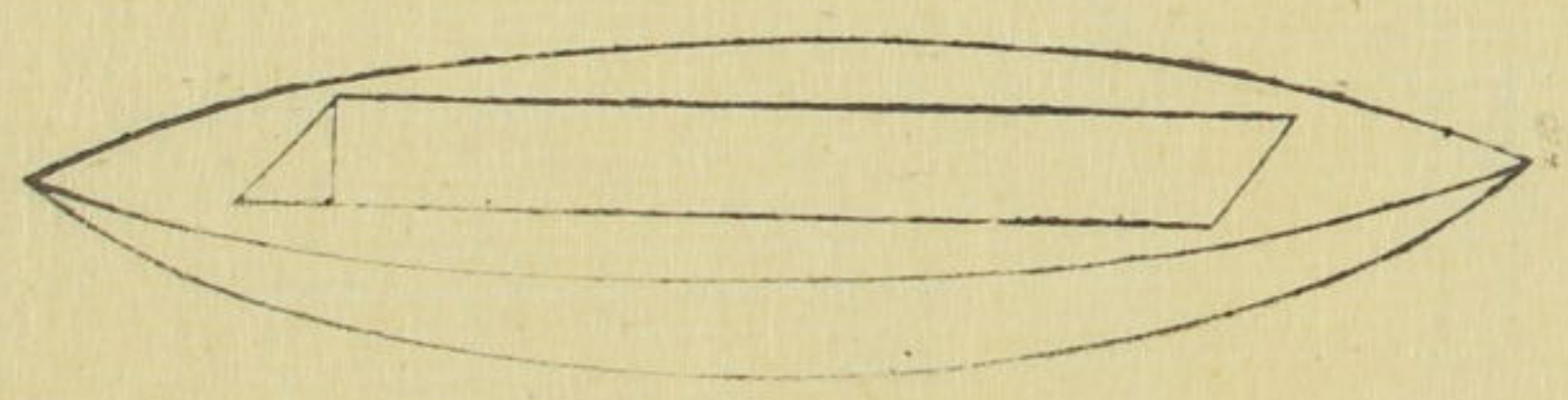
銀鞘 ぎんせう



蓋 ふた



身 み



箍 くわ



鎖 さ

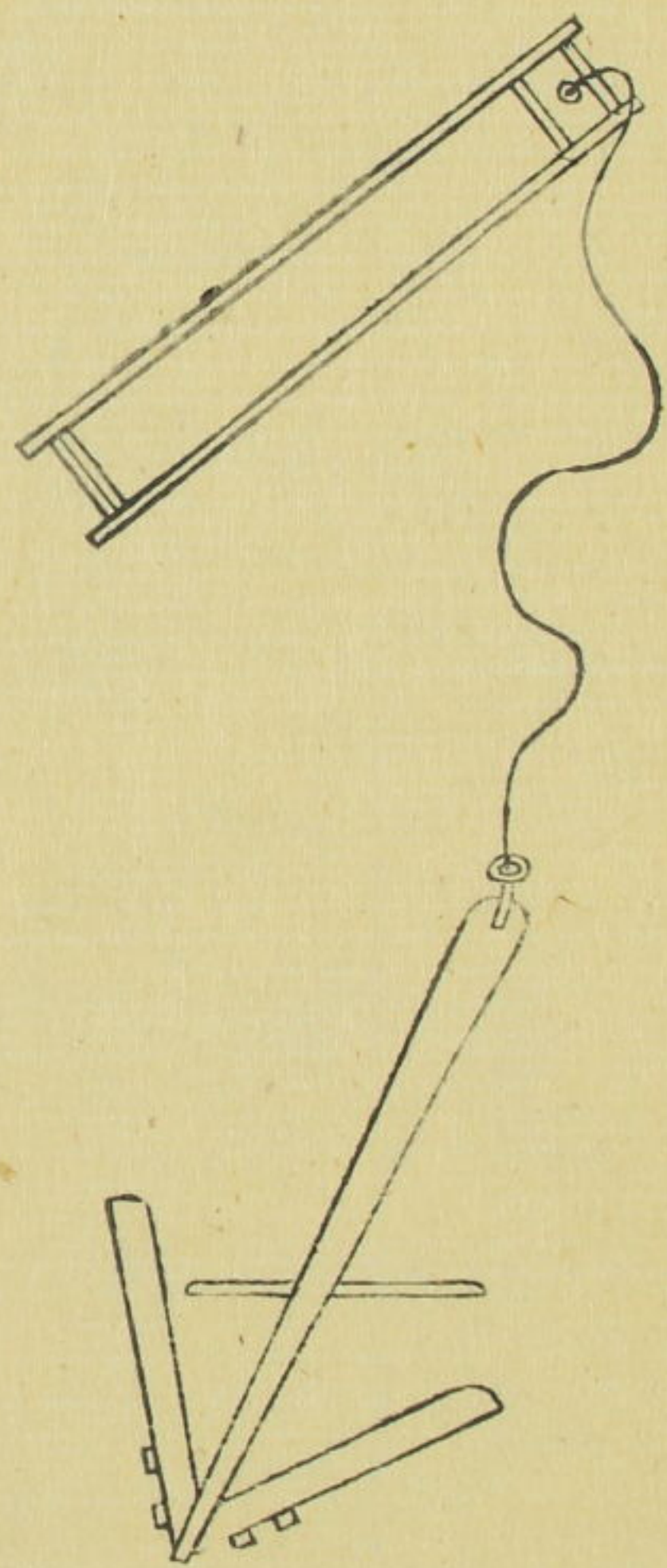




館公

○官人住來の宿前々其地の役所と建並一羽めく一澤八ヶ一羽ありひハ十ヶ
 所の大館ありナリ此公館とふまてく公用の官差此所み宿守ふ也宿賃
 賄料等の仕掛々其羽の開銷めまわく好めるとも其官差の心付めく
 十ヶありひハ二十日後の浪子を公館の支配人へ喚ぶ事あり是を賞銀と云
 ○旅店々村之洛毎みあり是を打火房とふ打火房錢晚旦一人前めくハ拾文或
 ち百文あり下飯と豆腐類一種魚肉等ハ其古のよにあらひて何程も出は世
 科と別版み掛ふ

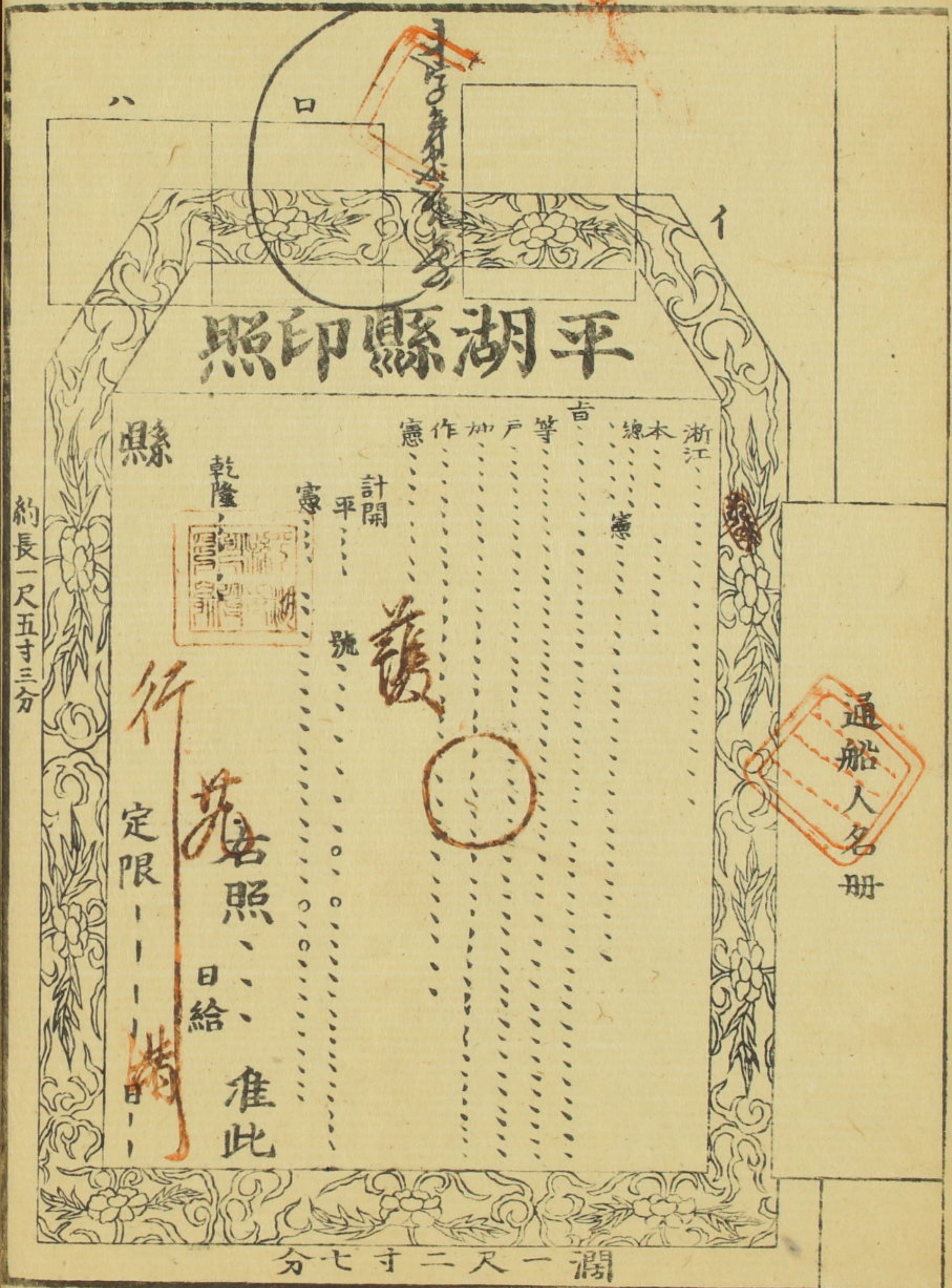
旋



○河船あり河泊所又と埠頭とを船成出に開壩と壩の降み河役一羽あり
 共一羽めく荷物を外船積留又と荷舟を並み引く壩を越えり
 過壩とふを改方と軍兵ありいり茶店あり官物を奸商せきあたえり
 惣して沿海沿河とて五塘汎と五里十里とに番所あり此一羽を汎地と
 不羽とて把総一人兵士二十人宛勤番はとて河船盜賊あり

非常の事を防備しふと免れり

○民商外國も通商す不時と海路あり船牌を其地の知縣に領牌す其
 船牌都合四枚あり撫院より一枚是を部照とて布政司より一枚これを司照とて知縣
 より一枚これを懸照とて海防廳より一枚これを廳照とて右四枚を持て津口乃
 塘汎に至るとる物のありとるあり牌のありたり成も請ふ此の塘汎より其
 役一の印を押さる紙代縣牌とて其に粘くるとして成掛號とて
 民商内地十八省を通行するあり切手等の事ふ一若塞外ふ出ふとて
 其知縣も縁ふ路引を收領しとて成携り境界の関所よりありとて
 を受て通行を路引の書式詳あり



平湖縣印照

浙江嘉興府平湖縣為請嚴造船給照之法等事蒙
 本府信牌蒙 布政司憲牌奉
 平部咨覆本部院衙門會陳條議前事等因題覆奉
 旨允准欽遵通飭奉行到縣刊刻木榜豎立城市通衢沿海口岸曉示

又奉單開稽挾各條目又發尺式著書大張告示通諭等因奉此業
 經刊刻榜示並大書告示通曉在案今據本縣船戶范三錫呈報前
 來除將該船量烙併訊取船戶舵水灣甲里族鄰佑保家各供結外
 合行給照為此照給該船戶即便賞執依例駕赴掛驗前往貿易如
 敢私行頂替及夾帶違禁硝磺樟板釘鐵大舵大桅含擅鹿茸桐油
 黃麻棕片農器等物為匪作歹情弊各口汛防暨巡司捕員五將該
 船戶舵水一並拏送以憑嚴究解憲治罪毋違須至護照者
 計開
 平字第拾柒號船標頭壹丈捌尺。寸。分
 舵工水手共貳拾捌名又奉憲行會同關部額頒
 尺式就船頭標木量確一丈八尺。寸。分係歸輪課
 船隻
 右照給船戶准此

縣

乾隆陸拾年玖月

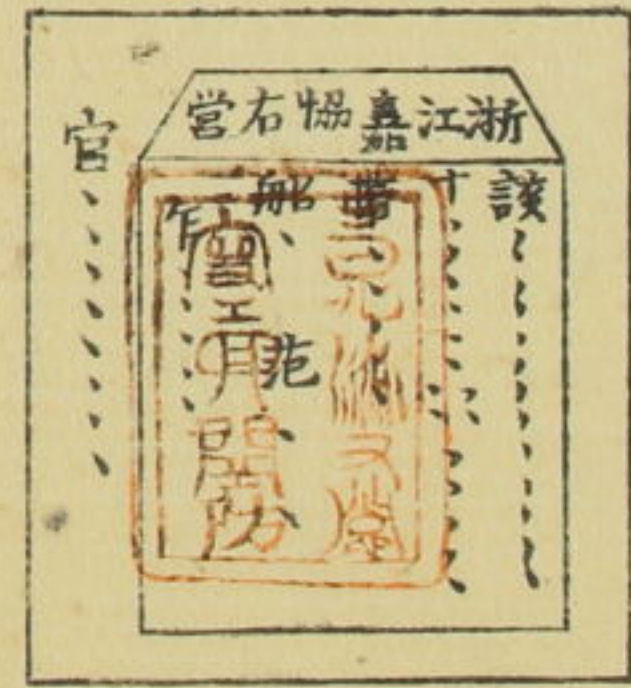
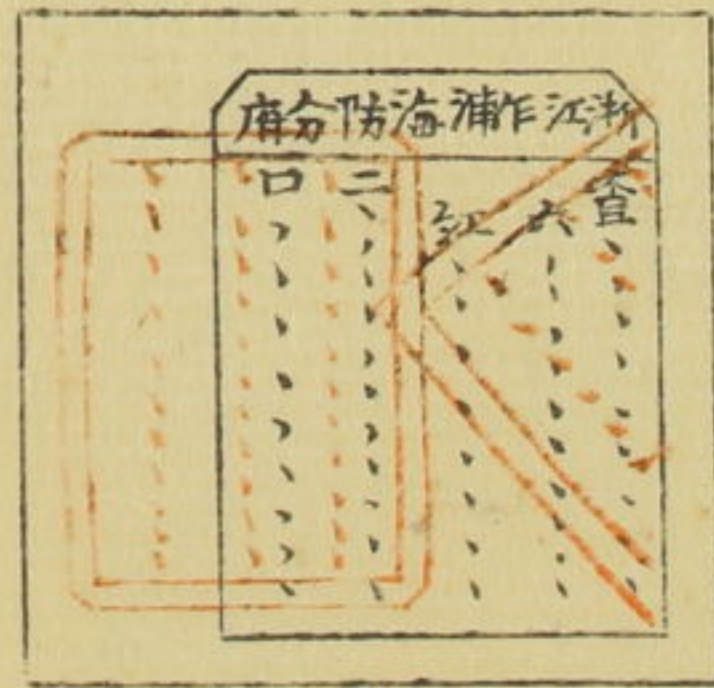
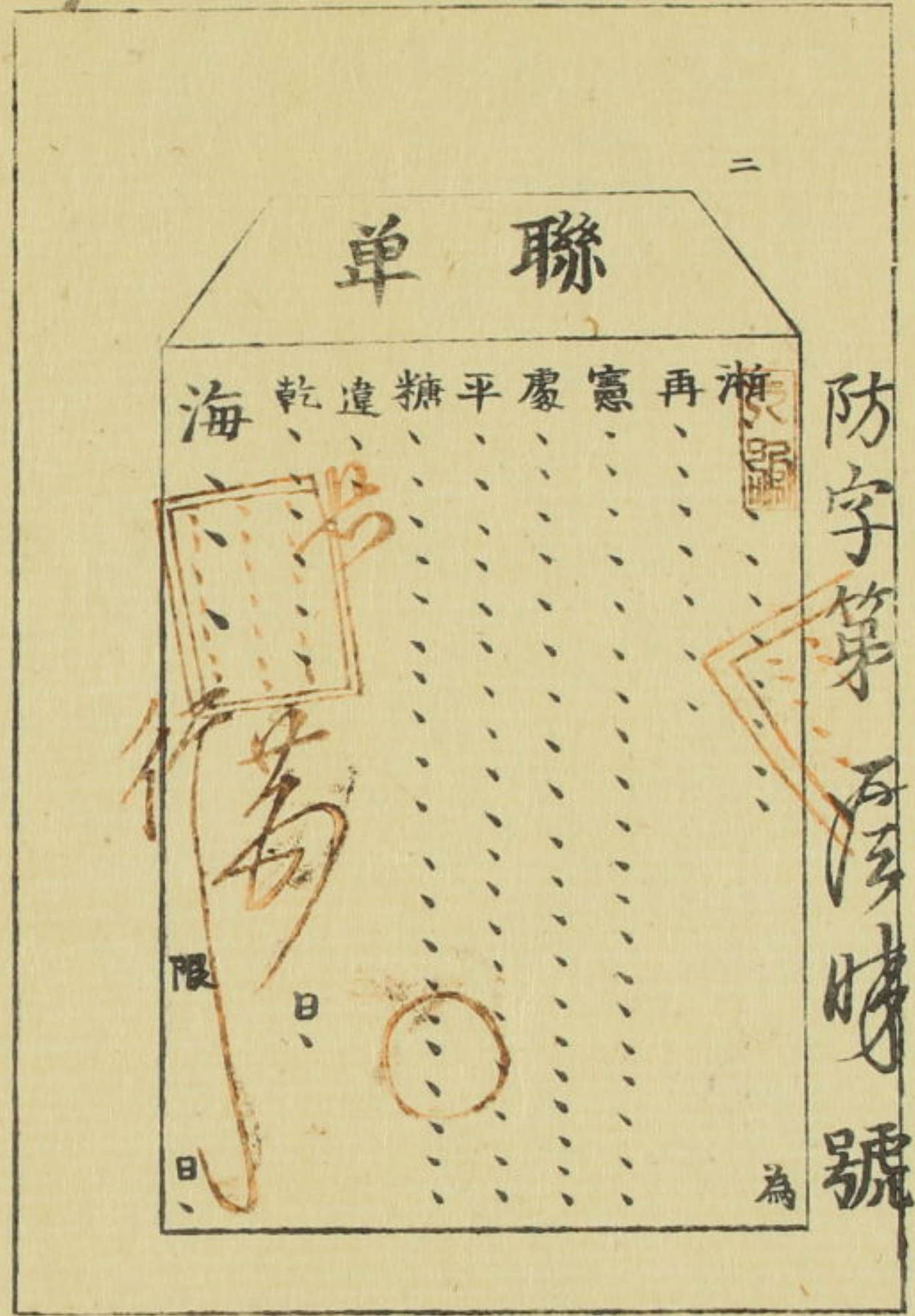
定限對年對月

駕旅

廿二

日繳換

粘縣牌掛號之圖



口 浙江嘉協右營

該船於六十年九月二十一日到口

十月二十五日 將藥材等 出口往東洋

帶食米一百石 船戶范三錫 乍浦汛掛號記

官商錢繼善承辦洋銅

浙江乍浦海防分府

查驗船戶范三錫於乾隆六十年九月二十

一日裝載紅銅進口於本年十月二十五日

裝糖藥材等貨物出口帶食米壹百石往東

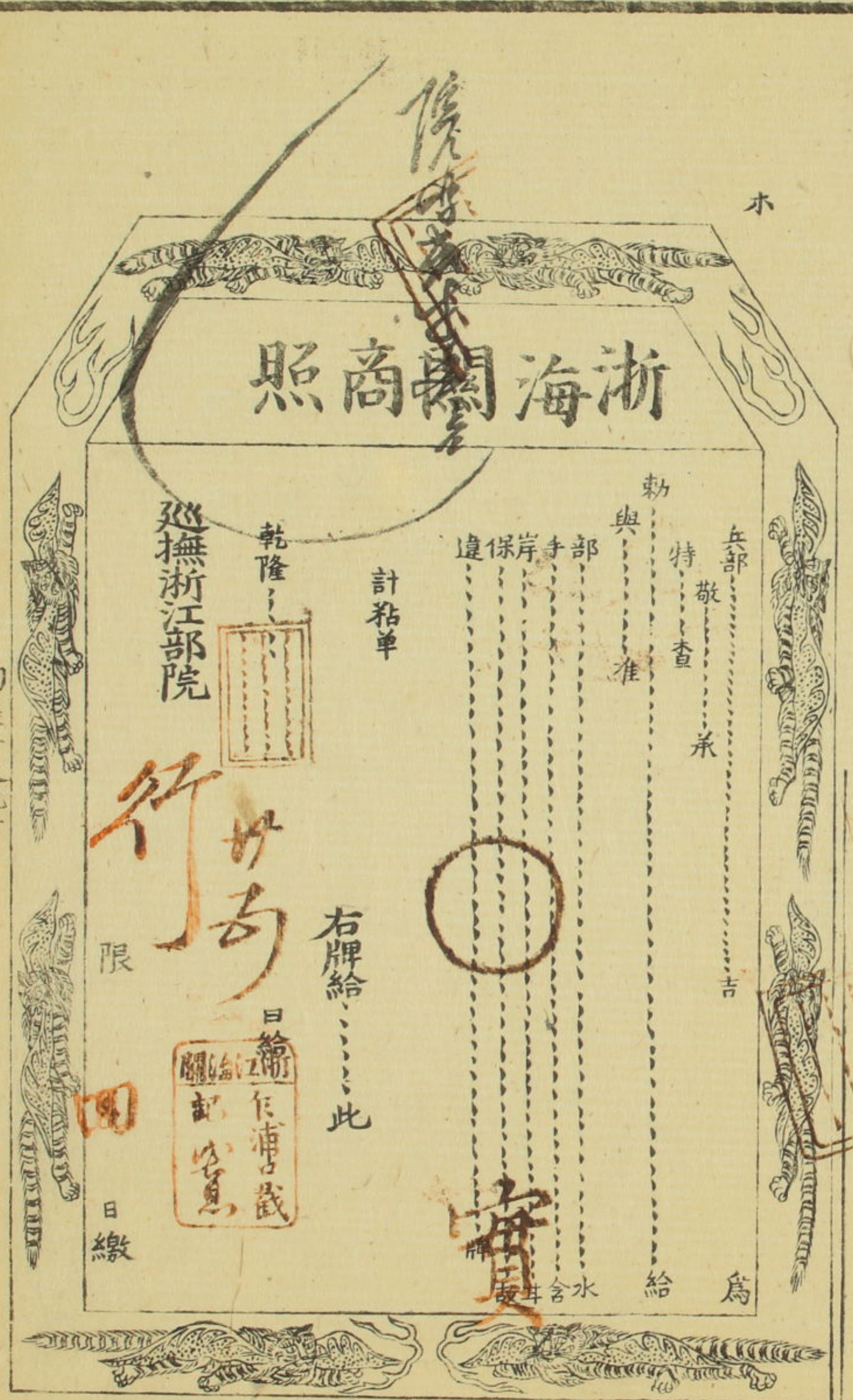
洋

聯單

浙江嘉興府海防總捕分府再飭汛口等事案奉
 憲行出海船隻設立聯單填明船商舵水姓名貨物
 經由處所便汛稽查等因遵奉在案今據牙人謝
 順興具報平湖縣船戶范三錫舵水共二十八名
 裝商費晴興糖藥材等貨前往東洋處貿易經過
 汛口驗明放行毋違須單
 乾隆六十年十月
 海防分府 限
 日給
 日緞

接辦官商錢鳴華之子錢維善採辦銅筋

通船人名冊



浙海關商照

巡撫浙江部院

行舟

日給
通船人名冊

計粘單

右牌給...此

日緞

分五寸六尺一濶

羅旅

約長一尺九寸

廿三

接辦官商錢鳴華之子錢繼善採辦銅餉
 兵部侍郎兼都察院右副都御史巡撫浙江等處地方管理糧餉兼
 理全省營務世襲散秩大臣騎都尉覺羅吉為敬陳專一等事
 照得本部院奉承特簡兼理海關伏查 勅諭開載凡海口出入船
 載如有夾帶禁物照例拿究商民情願從浙省出海貿易登記人數
 姓名取具保結給與印票以便出入欽此又准 部文內開船戶
 攬載開放時令海關監督將船隻丈尺親驗明白取具挖水連環互
 結客商必帶有資本貨物水手必查有家口來歷方許在船驗明之
 後即將船隻丈尺客商姓名人數並載貨往某處情由及開行日期
 填明船單令口岸文武官照單嚴查等因遵奉在案今據該商冊報
 人數並載糖藥等貨往東洋貿易等情並據商摠併行船戶商伴各
 具甘保各結前來合行照數給牌為此牌給該商收執凡經過各海
 口當汛處所驗牌查照人數即便放行毋得留難羈阻需索令文如
 敢故違官參吏處回浙到關船戶立刻先投當汛營縣候點人數明
 確方許登岸以憑申報本部院存案仍將原牌繳銷毋得違錯須牌
 計粘單 右牌給商人費順與准此
 乾隆陸拾年十月 日給 巡撫浙江部院 限 繳

浙海關商船照

乾隆 巡撫浙江部院 行

右照給船戶范三錫准此

海員

吉為欽奉 令

上諭 兵部 部 拾 號 〇 廿 〇 分 限 別 給 縣

參 照 平 海 不 參 照 船 牌 者

作字拾捌號計 繳

寸五尺一濶

約一尺五寸七分

浙海關商船照

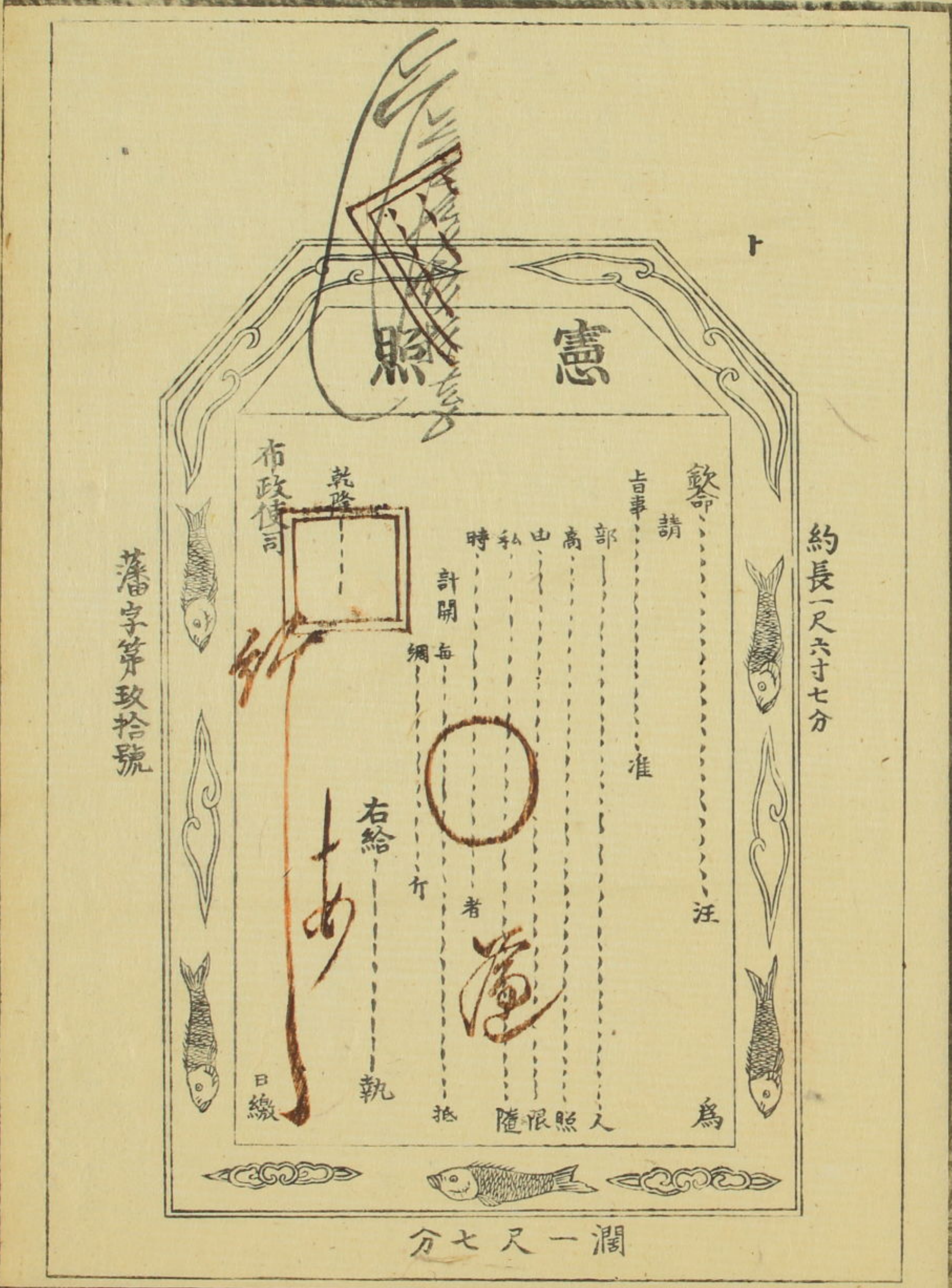
兵部侍郎兼都察院右副都御史巡撫浙江等處地方管理糧餉兼
理全省營務世襲散秩大臣騎都尉覺羅吉 為欽奉
上諭事案准 部文嗣後一切出海船隻初造時即令報明海關監
督及攬載開放時令 海關監督將原報船隻丈尺親驗明白等
因遵行在案今據嘉興府平湖縣平字 拾柒 號船戶范三錫探
頭壹丈捌尺。廿。分合即給照為此照給該船戶執持出入貿
捕防口員役驗明放行如敢藉端需索分別參處該船務將此牌按
期繳銷如過期不繳該船戶解關究治均毋違錯致干查究須至照
者

舵工水手人數照縣牌

右照給船戶范三錫准此

日給

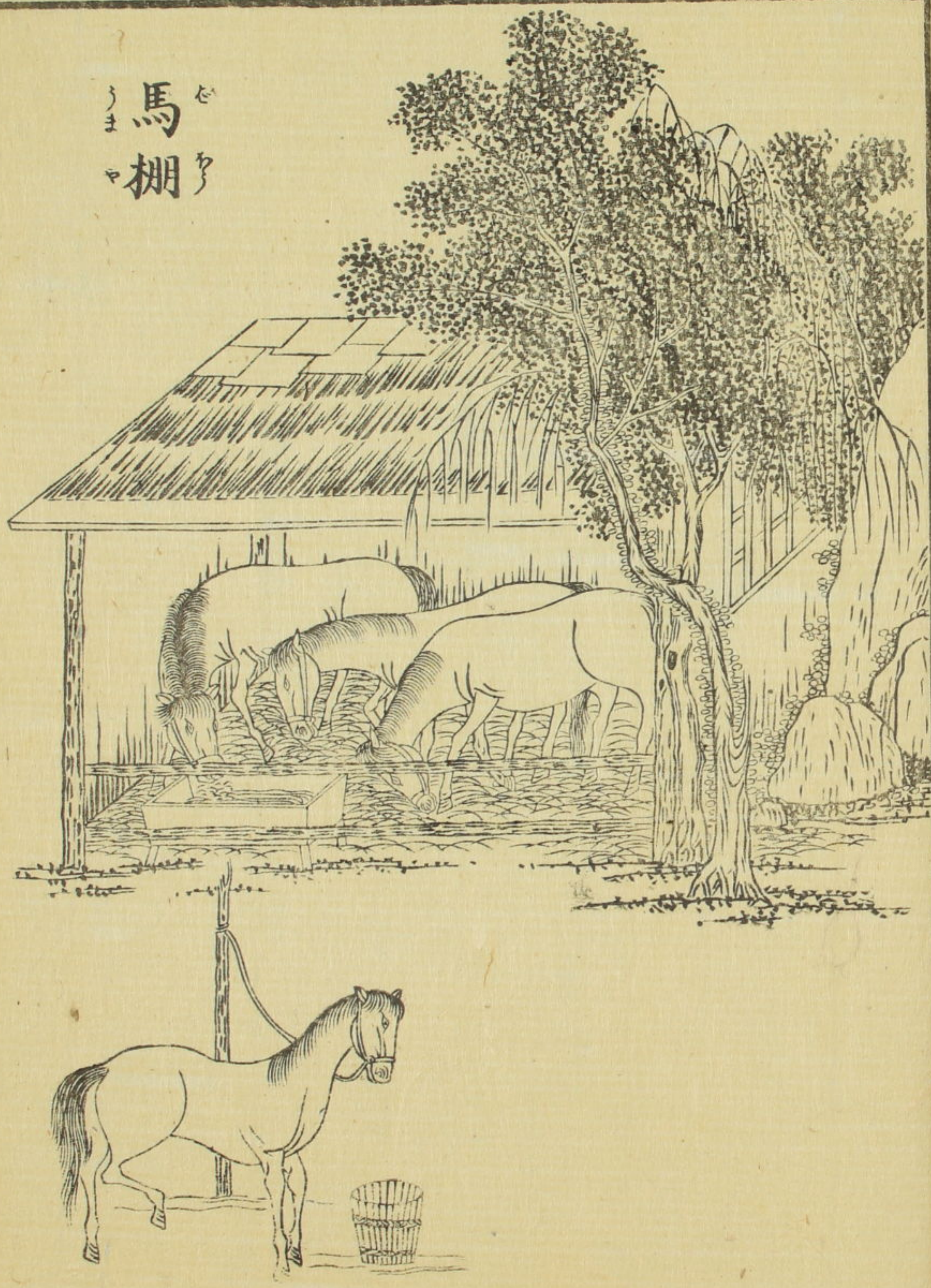
乾隆陸拾年拾月
巡撫浙江部院
卞字 第拾捌
號計完全年稅訖限次年柒月初捌日繳



約長一尺六寸七分

藩字第玖拾號

馬棚



馬棚

十七

草十五斤位を一昼夜の喰とけを晝の内喰成減存入る度喰成興又草
 小養の積成少しあつ用白晝中此に水成少し加興水を飲しむ事棚ハサ
 く草を少し傍暮おひ程よく飲しむあつ夏ら二三日一食宛浴せしむ毛
 を換出暫時引号水氣かたた家上あつ涼棚引入涼棚後半日陰
 の所あつ風の吹透中うにさつひ夏あつ一月お暖あつ日成えつ一夏
 浴せしむ又茶のさつ引廻さつ後暖棚入る暖棚風の入さあやう
 團日向あつ修補あり又緊及さつあつ馬ハ一時お喰を多く用ゆ事
 まづ草を少し成少しあつ水をさつ一飲先其後度喰成興さつ

清俗紀聞卷之十

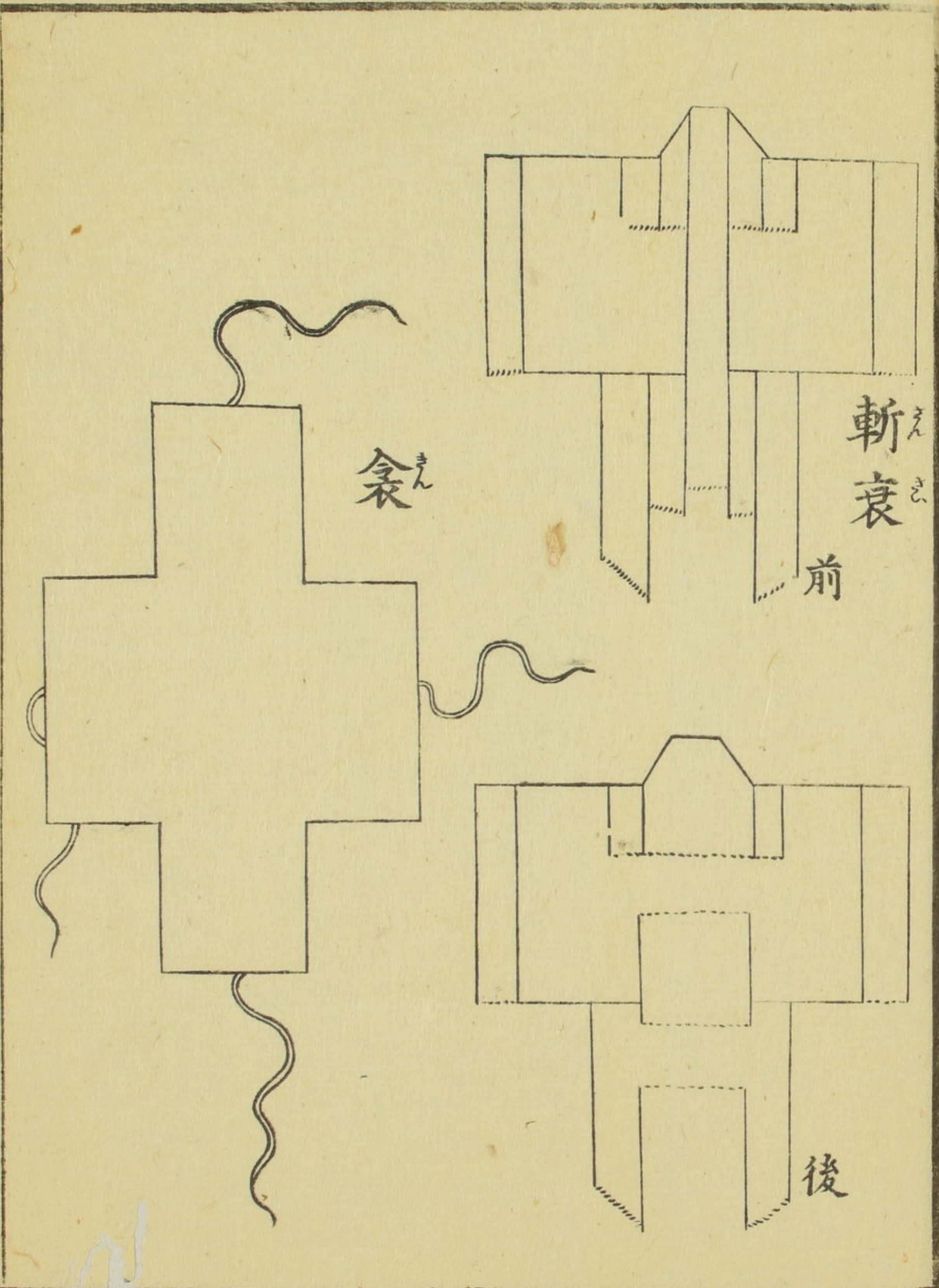
清俗紀聞卷之十一

喪禮

○父母死は正ま子孫この男女にん號ごう後ごは堪たば先ま子こは斬せん衰さいと云いふ
 至いたる粗ろ麻ま布ふを以もつて裾すそを裁き切きりて其その外がわは荒あ場ばみ流ながし
 是こゝ減へる其その外がわの子こ守まもり位ゐの次つぎみよりて稍すこ麻ま布ふ稍すこ熟じやく布ふを以もつて
 布ぬのめて齊せい衰さい細さい麻ま布ふを以もつて喪もつて家いへ内うち隨したが使はすも帯おビ孝こす
 隨したが使は奴ぬ婢べいへ喪もつて服ふく減へる者ものむ何なに正まも思おもはる布ぬのは粗ろ麻ま布ふ也なり喪もつ
 男おとこ女め席せきを同どうくせば父ちち母ははの喪もつて子こ孫そん男おとこ子こ外がわ聽きへる席せきを鋪ひき敷き夜よ侍まちへる
 内うち房ふらうへ入いらば飲の食く食く粥じやく素す菜さいを食く盛せい饌けんを設たす奴ぬ僕べい侍まちへる妻さい女によ
 多おほり正ま室むろへ入いりて妻さい女によ一ひと用もち向むかひて内うち房ふらう只ただ寄よ用もち向むかひて遠とほく
 女めら内うち室むろへ喪もつて動うごむ他た家けへ嫁よめたり者もの素す振びゆき喪もつて奈な不ふ却かへる喪も

喪禮

巾ふとら戸成開る事形一父母の喪みへ白糸粗麻布を以て長さ二尺程して一
 幅大門の上框に掛ふ其の喪みら掛ふ及む店商人等喪事取付
 みる一ある高ひを止る事何とも喪みよると高賣成止店を開る事
 あり小戸の者の定式の日殺喪を勤る事能を以て素服めく高賣催工者出
 身屍ハ奴僕ノ者先新ハ布を以て湯水浸し抹浴を抹浴を惣身あらは
 拭く月代を剃り辯成梳てお垂して蒲團の上み新せ新ハ衣振成
 着せ帽子靴子近も新ハ之を着せ一免枕をさせ並〇入殯の道具搦
 多衣表より不物をのり遺骸を衣振の俵にみ棺小蒲團をぬ云云
 鋪て遺骸を納む多く夜分み親類およそを俣くに骸を取収む棺棧
 と捕ちやと容易朽ぬ板料を以て板の合を固めハ漆成りて塗金
 人々身代の貧富みよると米を以て詰るも何と砂糖みよるとけり或ら

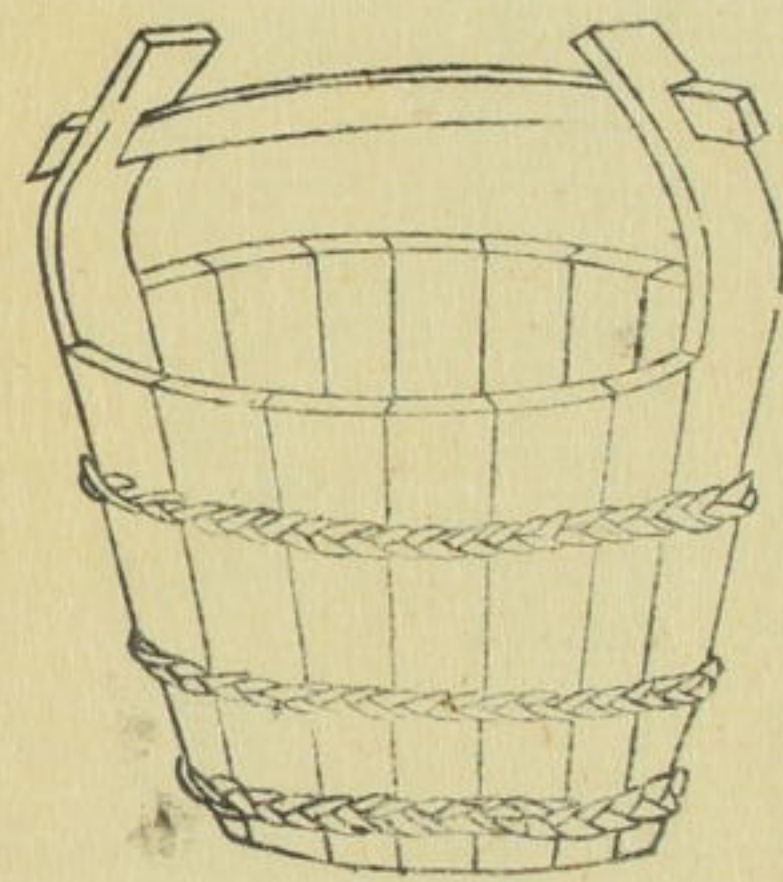


喪礼

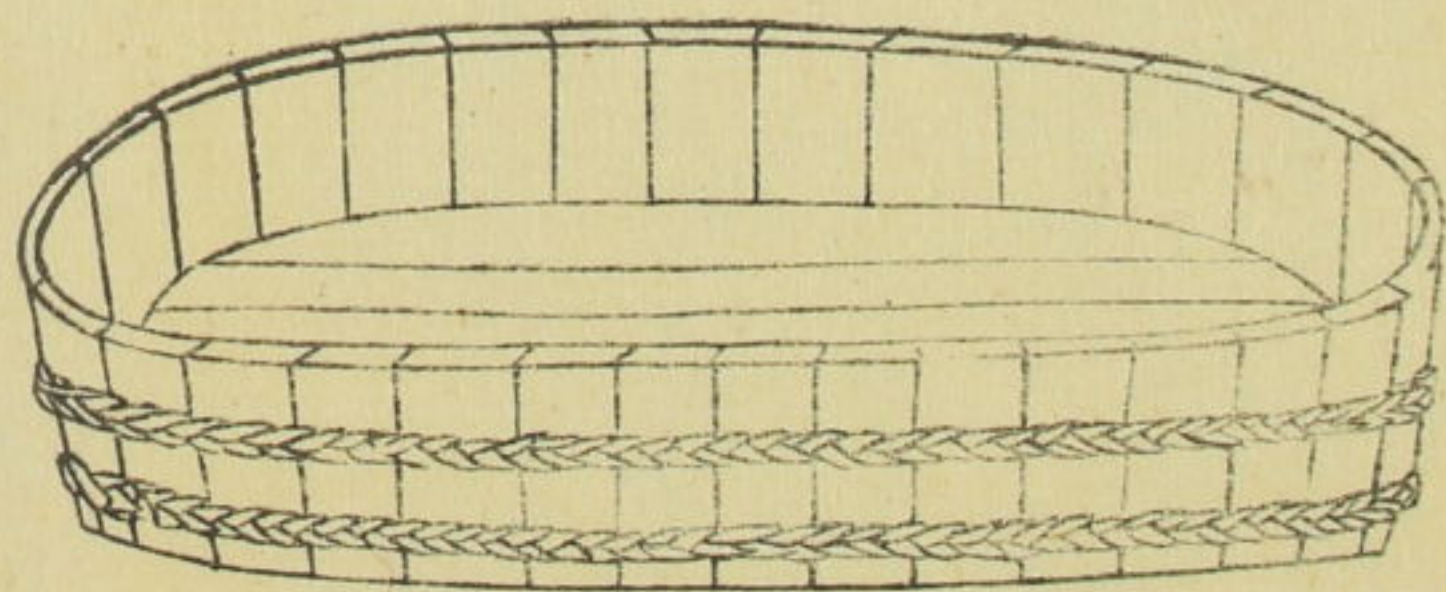
二



棺材 かんざい



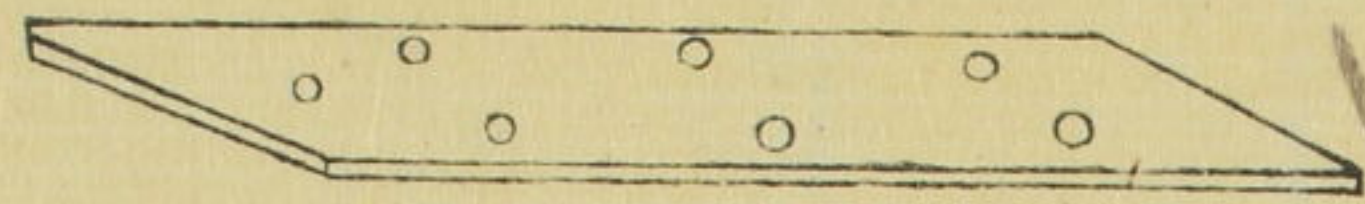
提水桶 ていすいづく



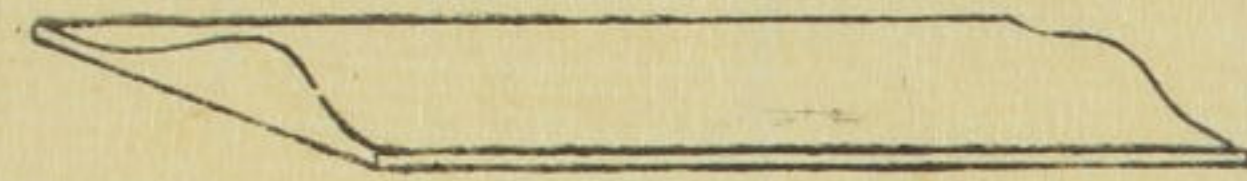
浴盆 よくばん

白灰山炭めく望く詰蓋を覆て釘成免糸
此釘を長命釘と云棺材を造らぬ積木の釘を用るに
 死を納ふ時着の衣服の外何れも棺めく且富家も死の口身其際
 一程入るも希之○棺材へ入るて年六十歳に於れば棺材の板を用
 し置毎年、くみ板を調へ替れとす半是成壽板と云棺材を
 大平車と云棺材の板を大平板と云生草み備へ出来ぬもの死後
 み成く子身此類調ふ是と積木の釘み及子鉄釘成用也
 ○沐浴の浴盆提桶を新み造るもあま古れ有合を用ふも
 ○入棺せむく廳上み白木綿或は白紗縞白縮綿等の幔を張中央
 脚吹の板敷物を敷く其上み靈柩を居置是より高れ卓成を木主
 をて香爐花瓶燭臺燭付燈籠を灯し並備物ハ四十九日の内
 野菜菓物類素食素菜を備へ酒成奠一同居の親類朝暮禮

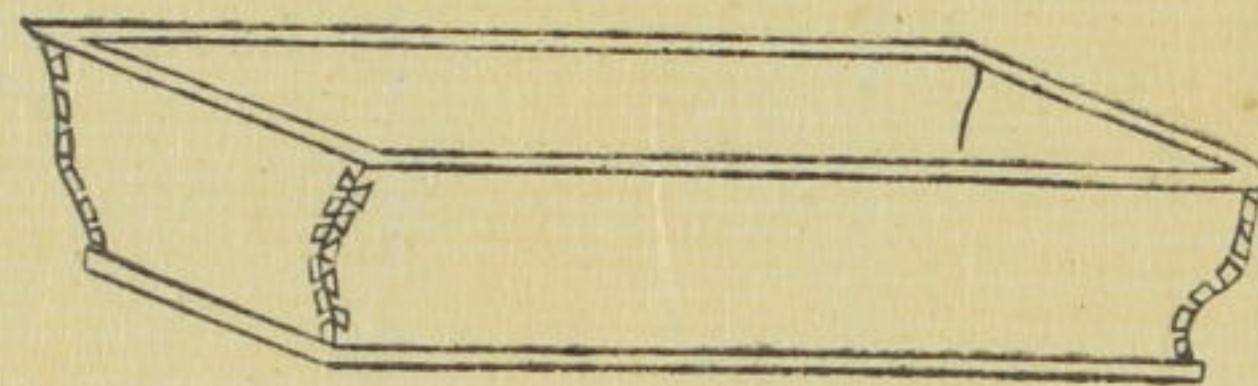
七星板



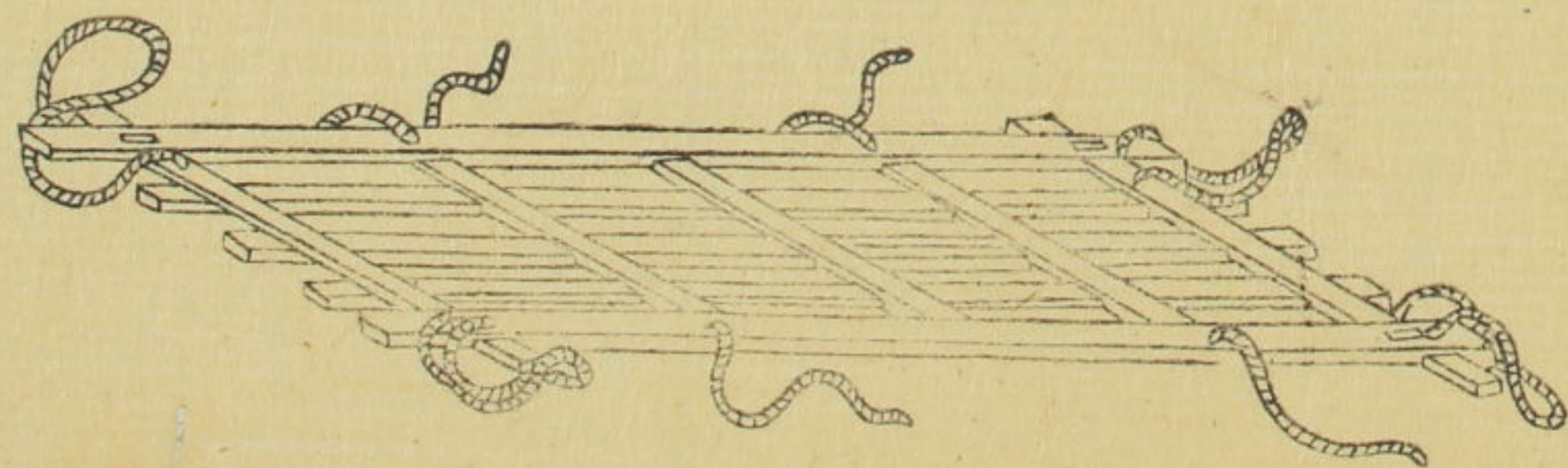
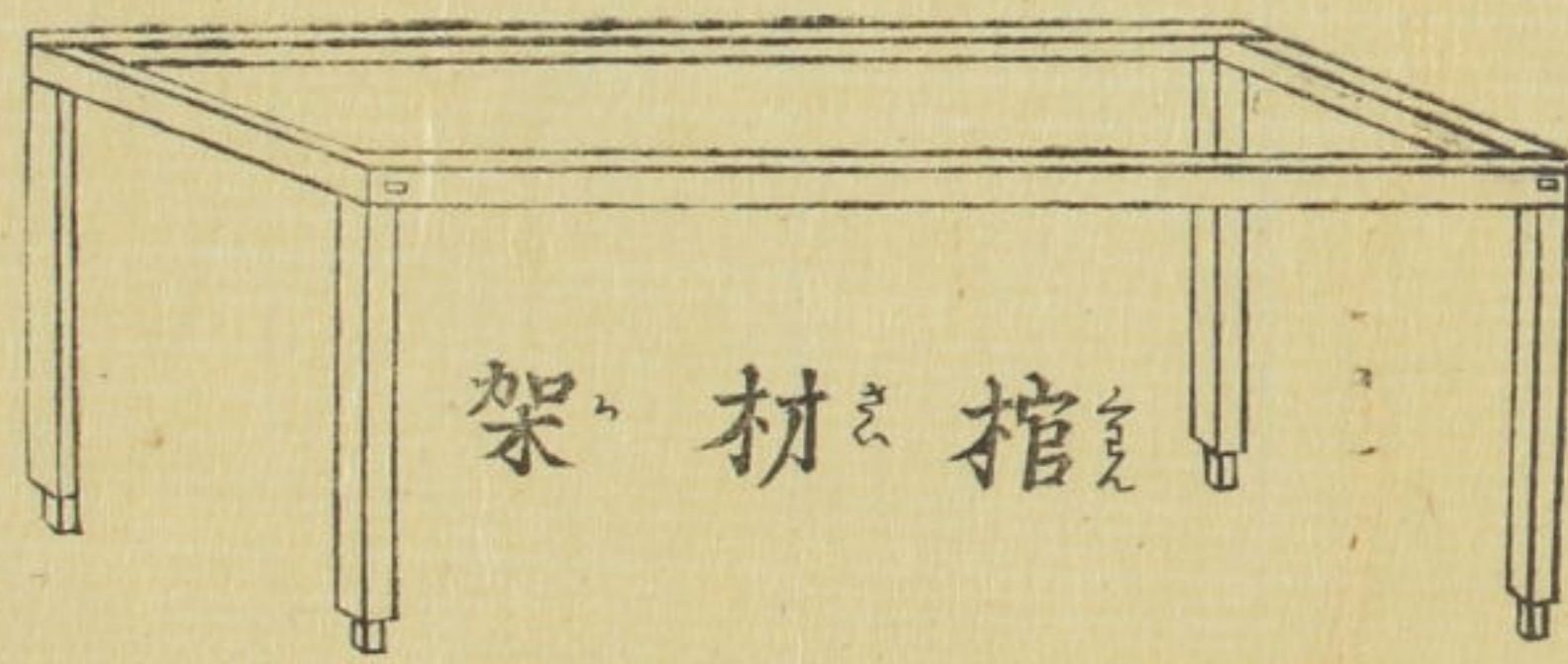
蓋



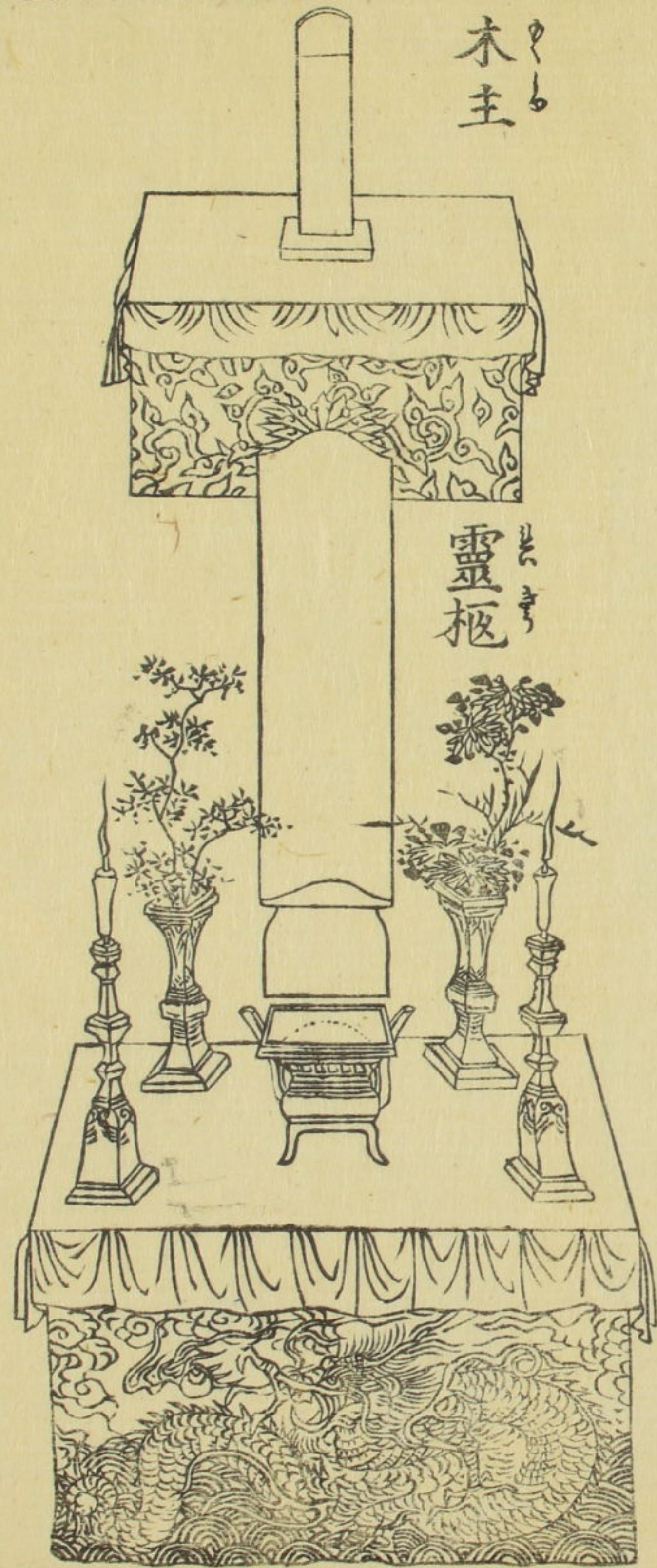
棺材



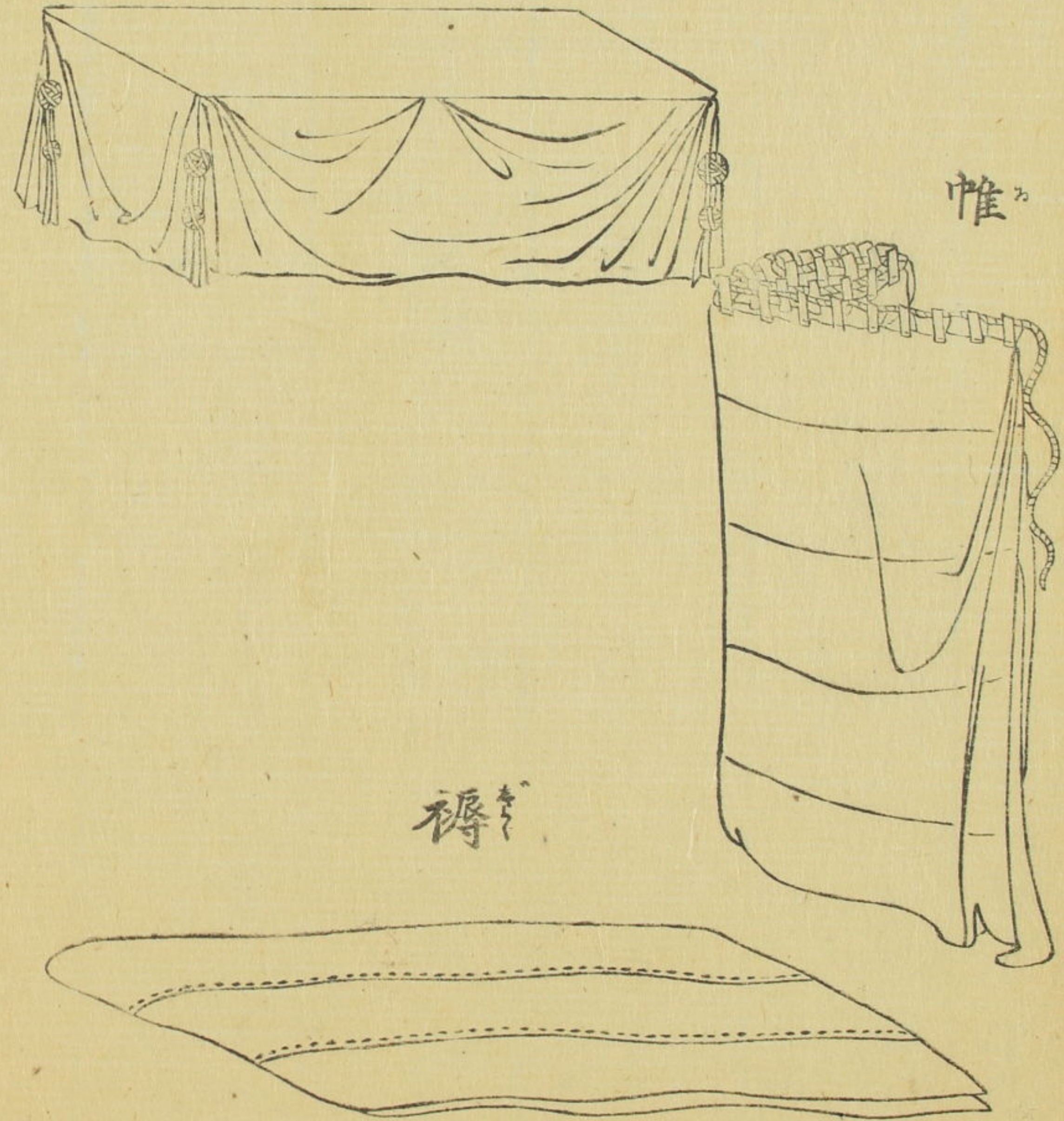
棺材架



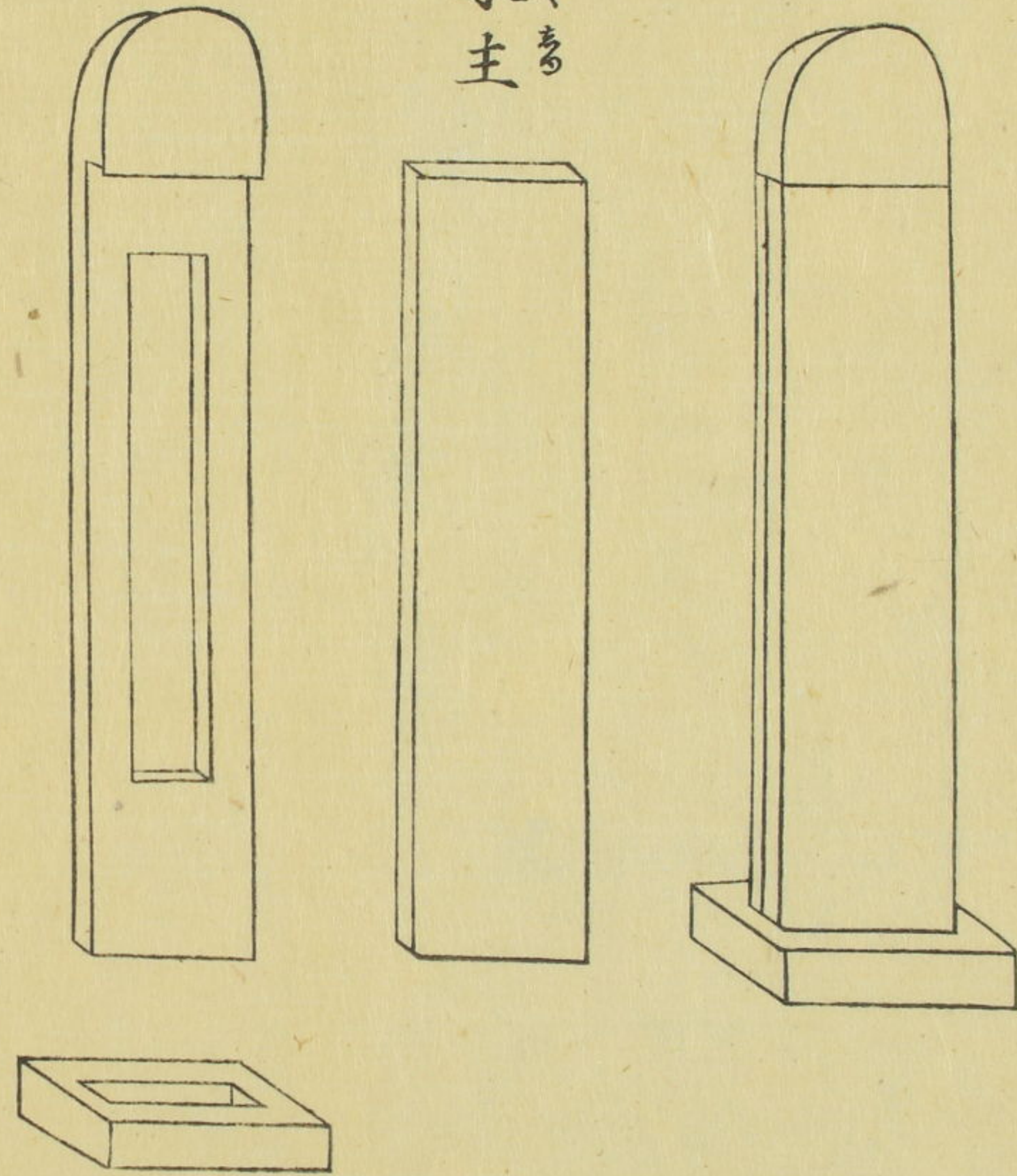
拜一四十九日成過れば葷を供人葷ハ魚肉類を云
 ○毎七僧倍成請一誦經以経畢して廳上テニビヤ一請一齋を出て五七日六
 道士成請一法會を執行以齋成出以此七々の法會は親友を請
 一僧道一同成齋成出を初死す寺へ屆僧徒を請一或は出葬は
 寺へ送り至ると並びに僧徒送喪す事幸れし七日毎僧道を請
 一誦經成たのち成出は事古礼ありし中興の風俗ありし時
 一流世事ありし○友人を吊るる事靈柩を拜せし事ありし
 世時子孫に承者靈柩の茶丸の方を跪き吊客を各拜せし事ありし
 吊客子孫に承ひ不淑み逢ふ事拜して哭せ主人を拜して哭後す
 吊客を帽子の上へ赤熊皮陰兒事衣服の平扱ありし



靈柩



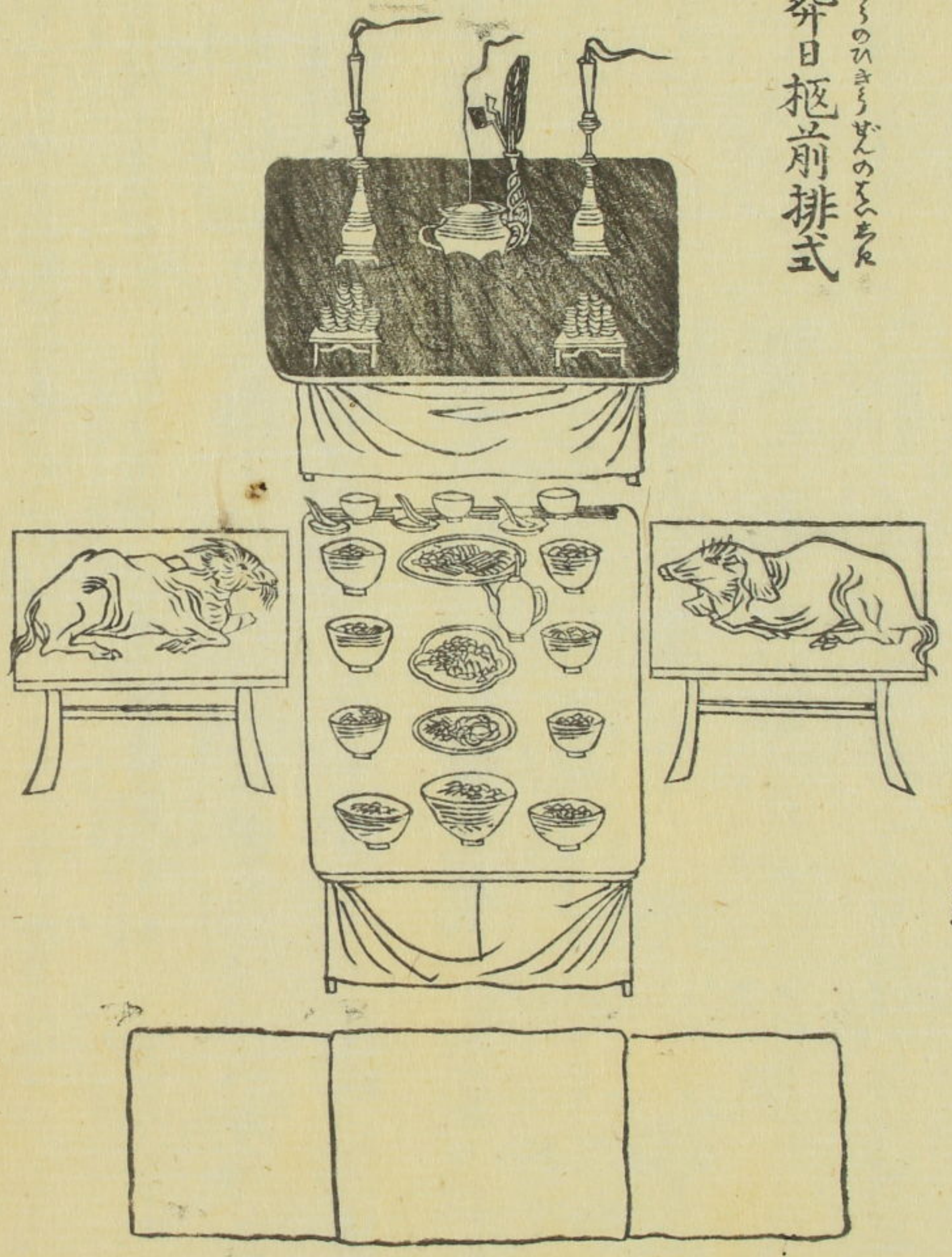
木主りき



○出葬しゅさうは家の貧富ひふよるとして即日又ハ二三日五十日百日或ハ一年二年成
 鍾かねて出殯しゅいんせし事考いしかず譬たとへ三年とて出殯しゅいんせし事も出殯しゅいんの日ハ子孫素
 服ふくを着ちかぎ民間えんげありし所ところへ殯いんせし事能しよりて入棺いりくわんの後外廳ぐわいてんへ柩くわを安
 置ちかし出葬しゅさうと共に重若ふか父母ふぼの柩くわ一年以内留置とどめておき外廳ぐわいてんの庭にわに假埋かりかまし
 二重にじゆうとせり○大戸おほいどの人ひとハ家いへに十四五しよごの年とし出葬しゅさうせ日先ひま柩くわ成明鏡めいきやう或ハ羅紗らさ糸いとに
 覆おほせを扱とりてふもわりて家の有あきふ稱なづふ道理ぢりめく小戸この人ひとハ家いへに五去ごそ人
 毛氈けしんを以もつて柩くわの上うへに覆おほひ或ハ木綿もめん布ぬいを以もつて覆おほひ水色みづいろ淺あ黄わう糸いとの緒いとを
 以もつて結むす糸いとを掛かけ柩くわの前まへに高卓たうたふ成なれた野牛やぎ猪ぶた鶏とり鴨かひ等られ全葬ぜんさう其
 外そと山海さんかいの旨味あじ菓物くわぶつ類るい種しゆ供ともへ酒さけを奠たへ糸いと成なれた焚たき子孫しよんへ柩くわに附つけ
 添そ居ゐふ送殯しゆいんの人ひと靈柩りやうきうの前まへに糸いと成なれた稱なづふ畢はれハ奴僕ぬぼく側がはらに侍まをり長ながサ
 一尺二三寸いちじふさんすん程ほどの白木綿しろもめんを以もつて一人ひとりみ一切いっけつで配くわふ吊客ちやくかく拜をり畢はりて其その中ちゆうに

此白本綿をぬき持帰ふ是利市布と云喪事吉利ありぬ事故
 利市此文字をぬき名付し事と云 鶏野牛猪 生を三牲と云

出葬日柩前排式



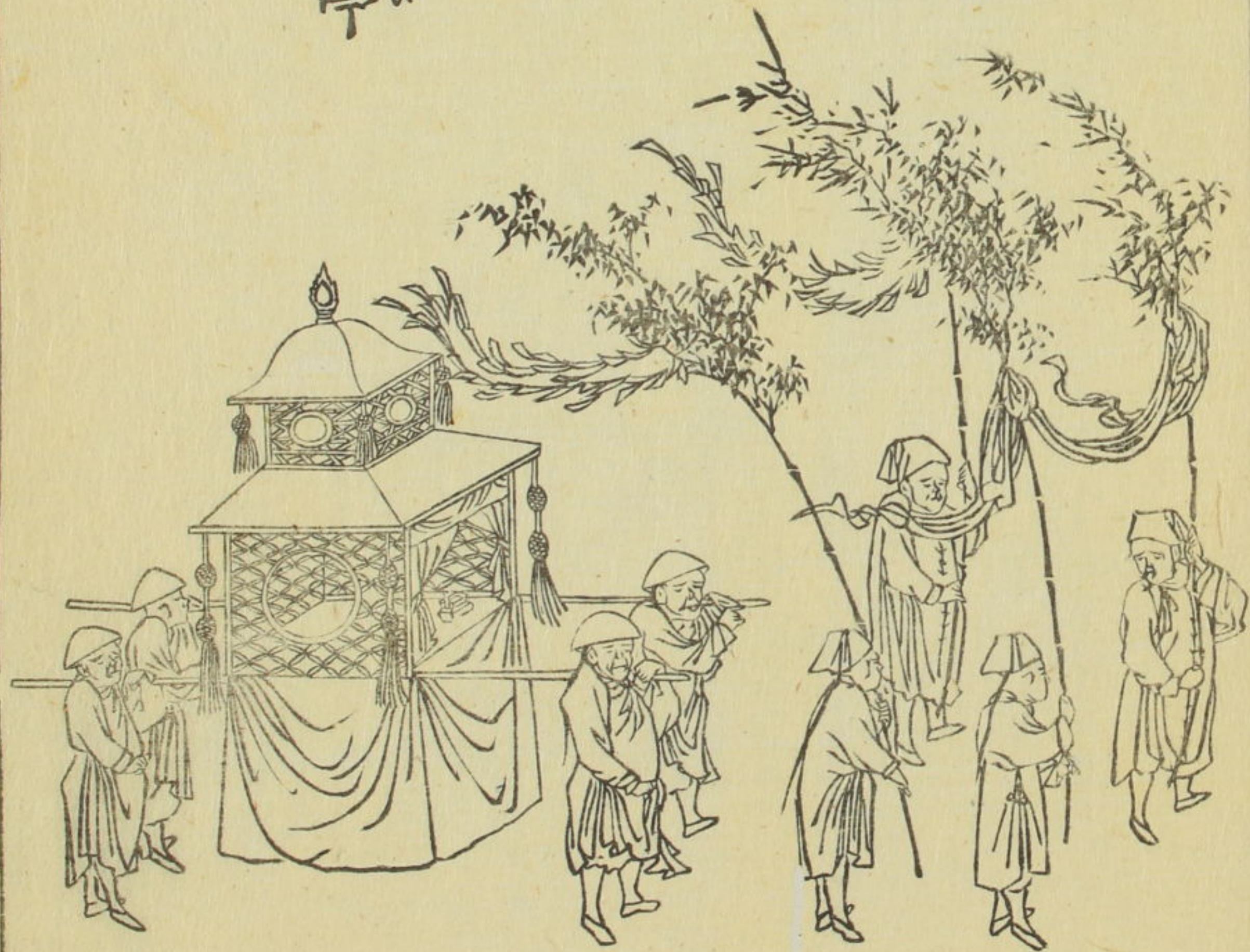
此出喪の時吊客入りて拜以喪主ハ位み就て答拜也位と云柩の前左
 の方み頭を地みはきて拜也是を替願と云 ○吊客供人物一二

只持たせ供ふ事あり人の心得みよるも葷物ありひの素菜をのち
 ちかふも何れも等しくぞ 葷ハ野牛猪鶏魚肉をいハ 素菜ハ葉物野菜餅米を云 ○出葬の行列先ハ
 江白の清めく幟を造り竹の先み由ひ付ぬ方にもて次み 燈籠

香亭 鼓樂 絲亭 靈柩也 靈柩ハ明鏡羅紗等みよるいふ
 四方ハ水色淺黄花色等の清めて結綵を掛前後左右み緒成付
 高揚の中よりあらもみめて擔ひ子孫ハ柩の左右み添く白糸本綿

六七尺を以て額みあて人の之月の方みく結ひ両方よりぬれ柩み
 添く道をなら哭けみ姪若れ親類ハ白糸本綿みく頭巾の紐あり
 形をつらとわづて一人ハ銘旌を持其餘ハ柩みつれを以て柩を担

香亭



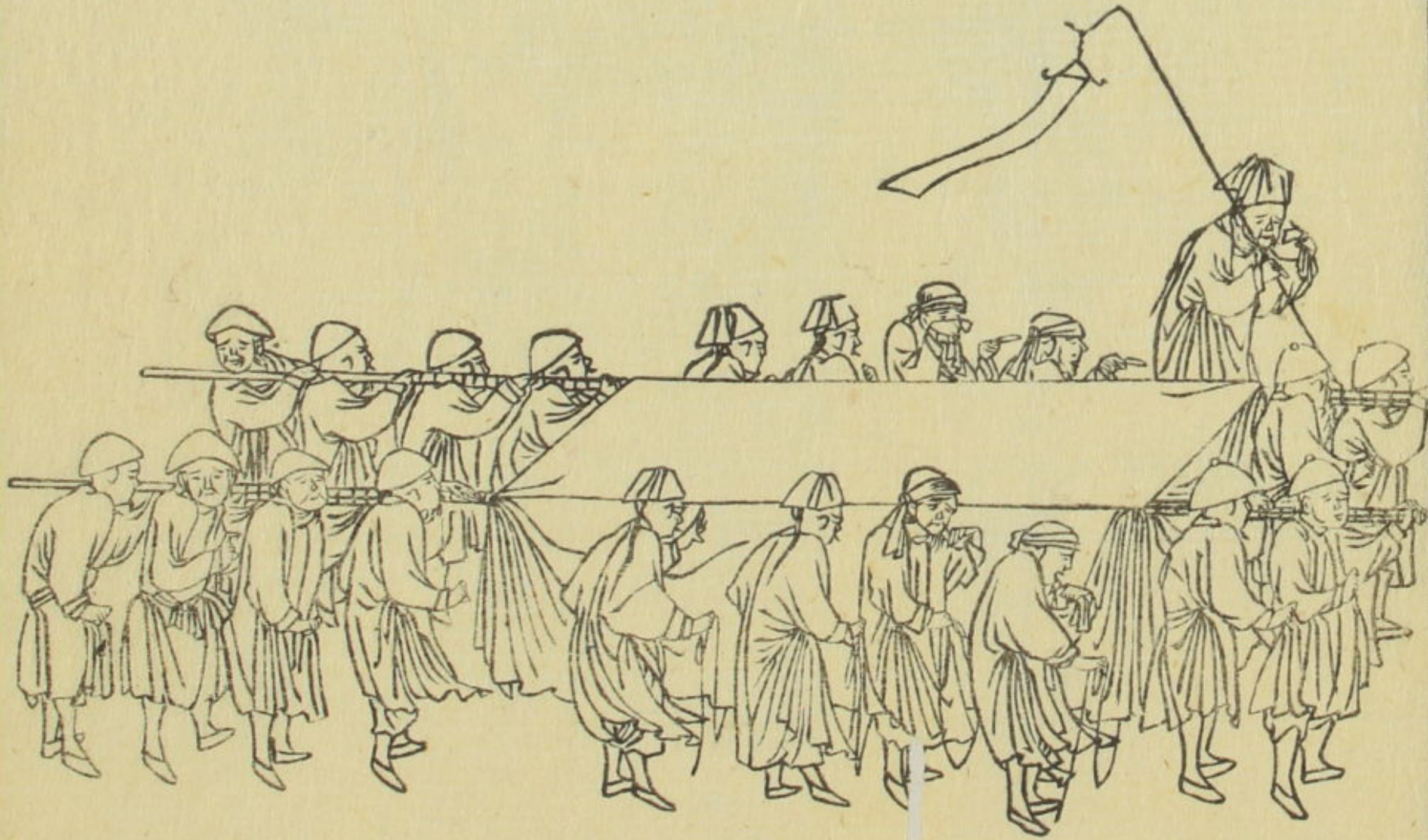
鼓樂



○靈柩を先祖の墓所へ送り、其の場別風水の吉凶を考ふ事有、其時に柩
 の前後の方小石を掛け、其の上小菊を以て飾り、喪屋を造りて地面を吟
 味する事有、是を權屏と云。○葬終り、緑香灰焚燭を焼く、眞衣紙大金
 紙を焼く、眞衣紙の紙は、紙の帽子、襪子、香を焼く、是は金銀衣類を焼捨ふ心と云、
 金、大金紙の紙を焼く、

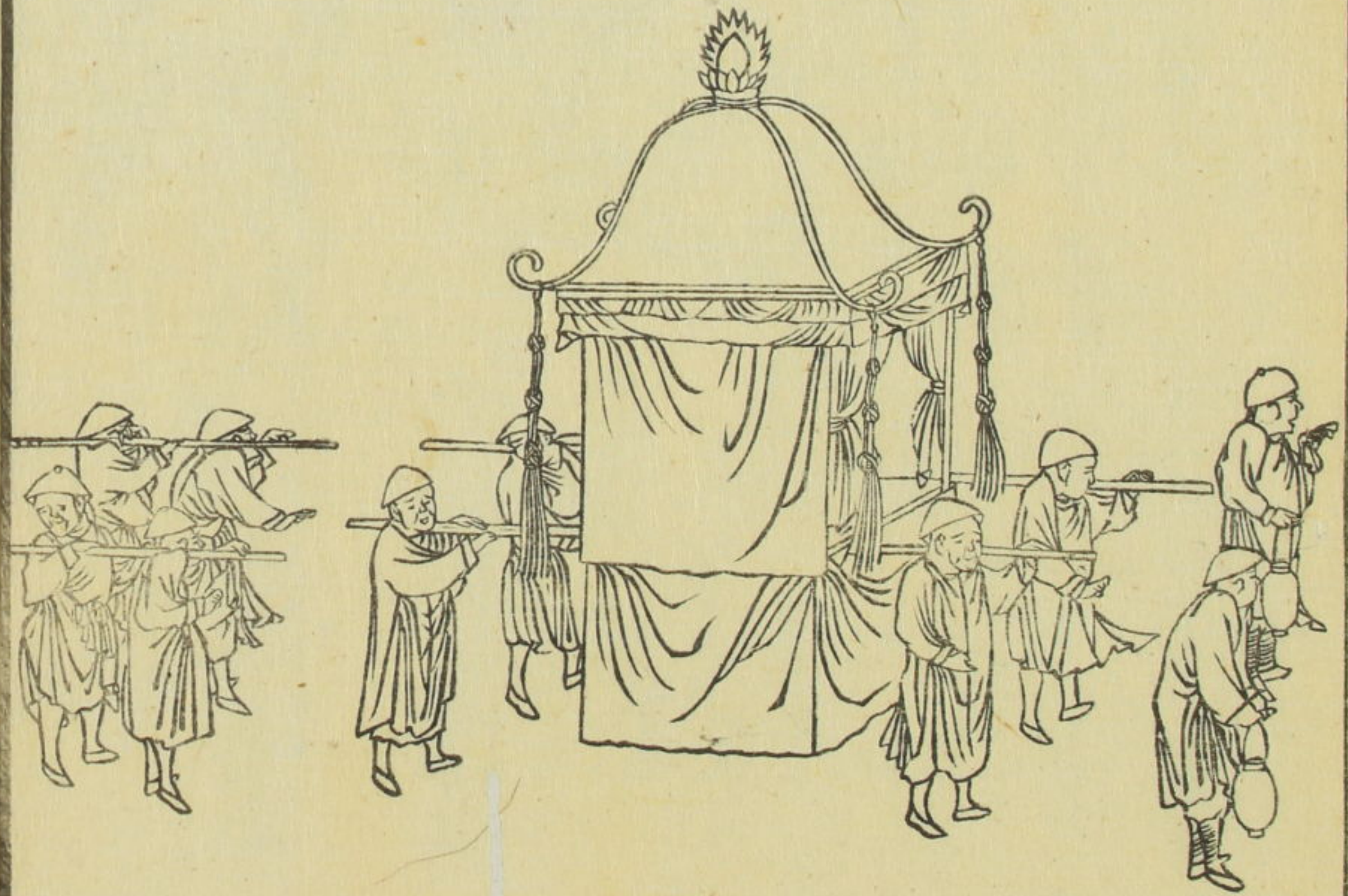
銘
旌

棺

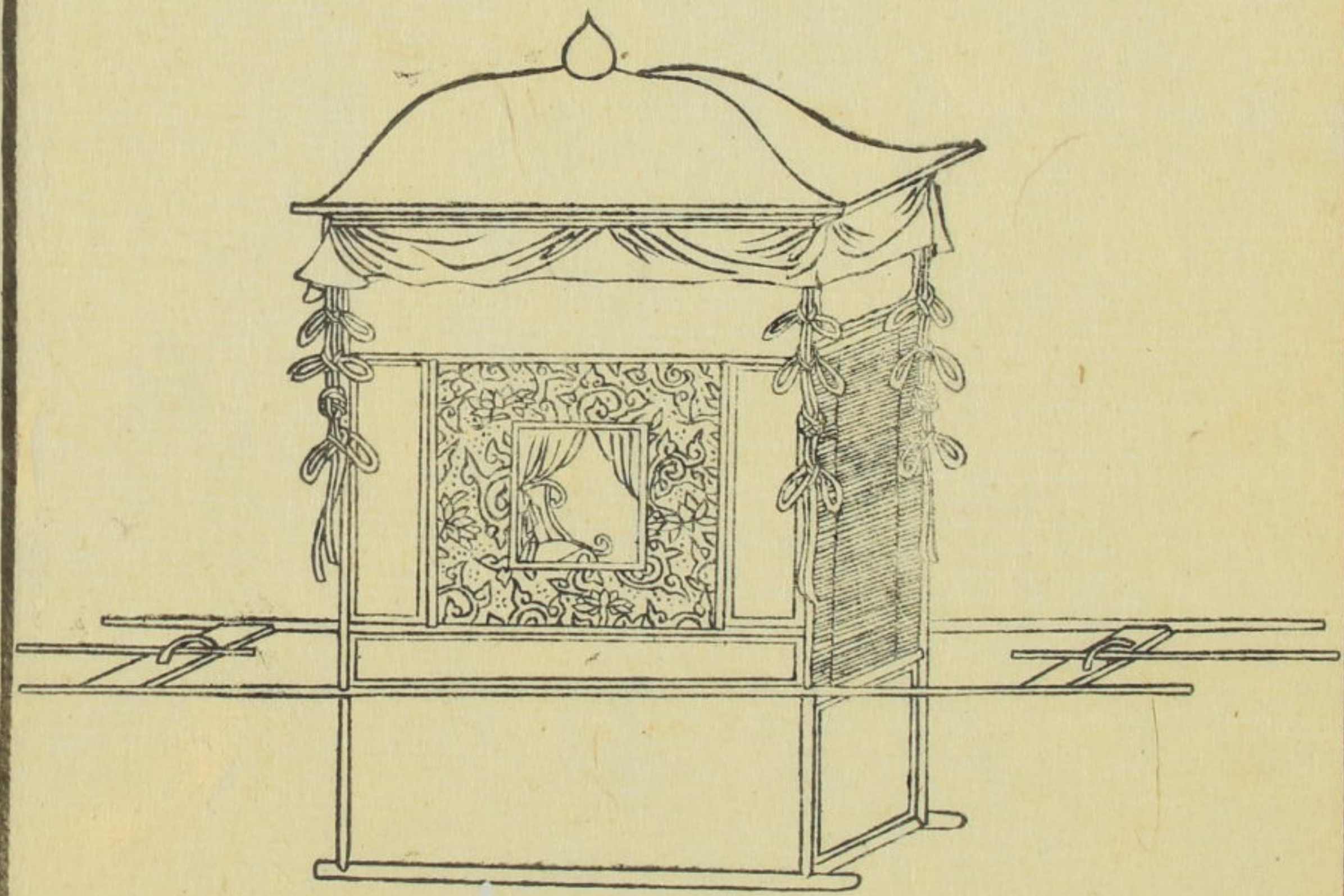


+

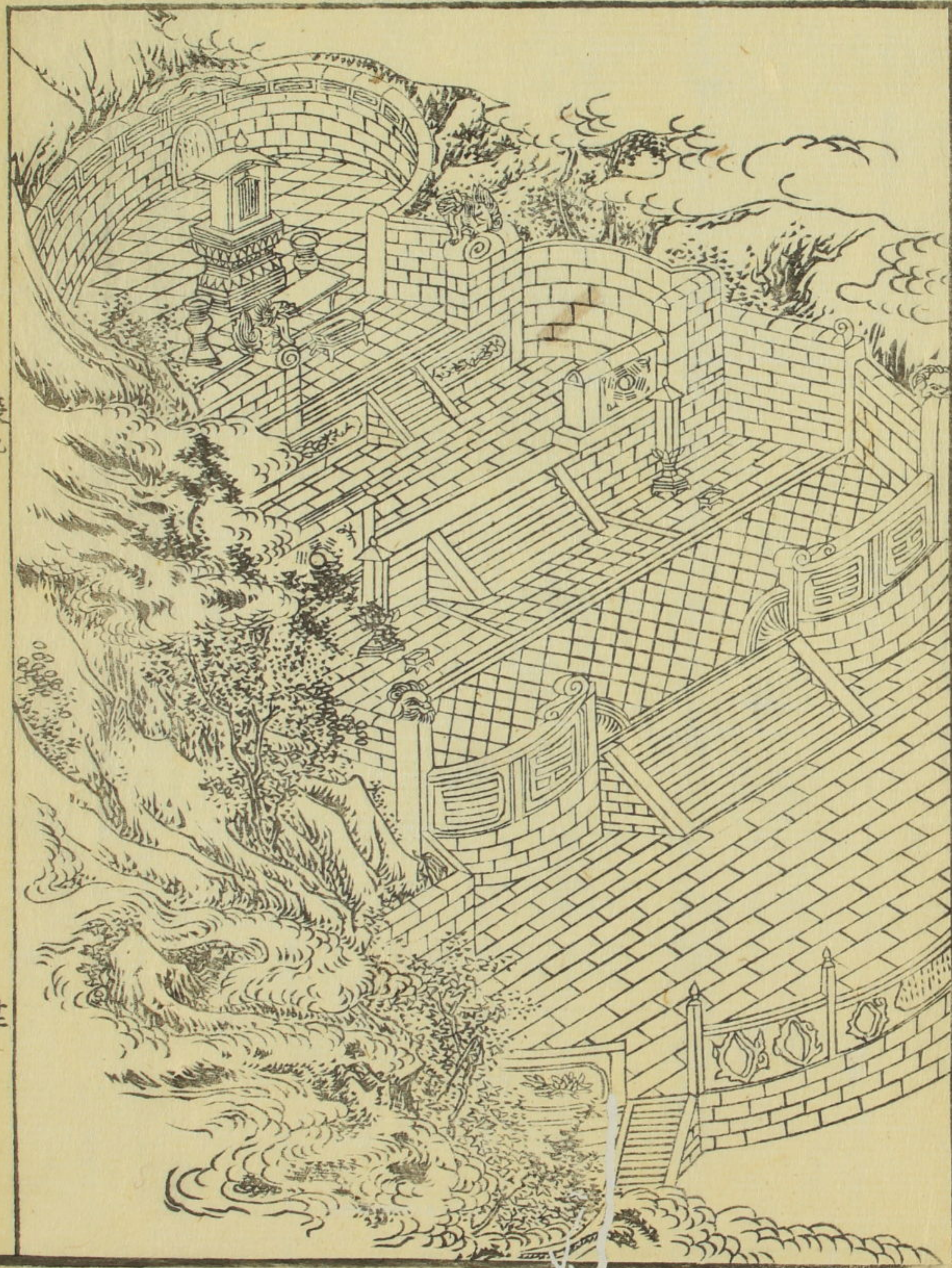
煖
輜



絲亭



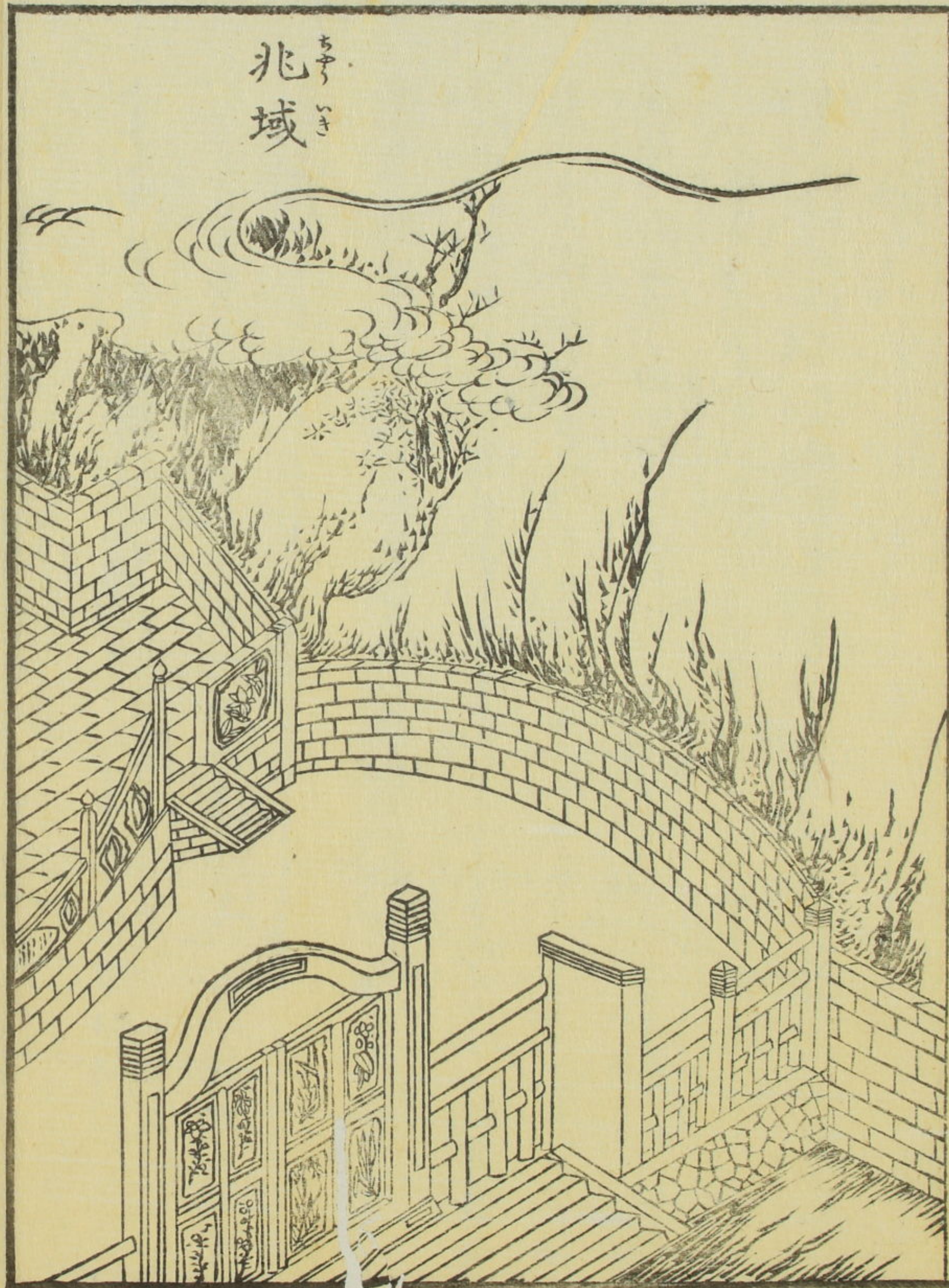
○石碑せきひとまもて石匠いしじやうはあつにた埋葬まいざうの日い由まに建ふ銘文字めいぶつに金の泊を
 入いる○喪中もつちゆう親類おんるい朋友ともより野菜の菓物くわつぶつ或あるは餅菓子もち食物じよくぶつ等ら減
 ちちふふ事ことあり○此こゝに只物もの目録もくろく書用しよゆうふ事れ○他た郷きやうに死す
 且かつ送葬そうざう時とき柩いけの上うへに白地ぢ鶏けいを一番ばん生せいの結ひ付まくされ哉
 領りやう龜き鶏けいと魂魂たまを故郷きやうへともあひつふ心あり
 ○墓所ぼじよの先祖せんぞの兆域てういきに墓がある或は風水ふうすいをかんぐて外に墓を
 あらわらふ求るもらふと都々た々墓を山にあらわす見晴みはりして一石いをのむ
 周まわりを石いでめぐるもみ後うしろにたくして其上うへに樹木じゆくを栽墓ぼの内うちに方軌
 とふ方かたあり石成い敷し結むす石せき檻いを造る喪式もつしきにあひみ兆てう域いき等ら官くわん制せいあり
 且かつ民間みんかん死し失しつの第官だいい所じよ里り長ちやうへ届ふ事あり御紳おんしんの類の人ら官くわん所じよへ
 ぞられ

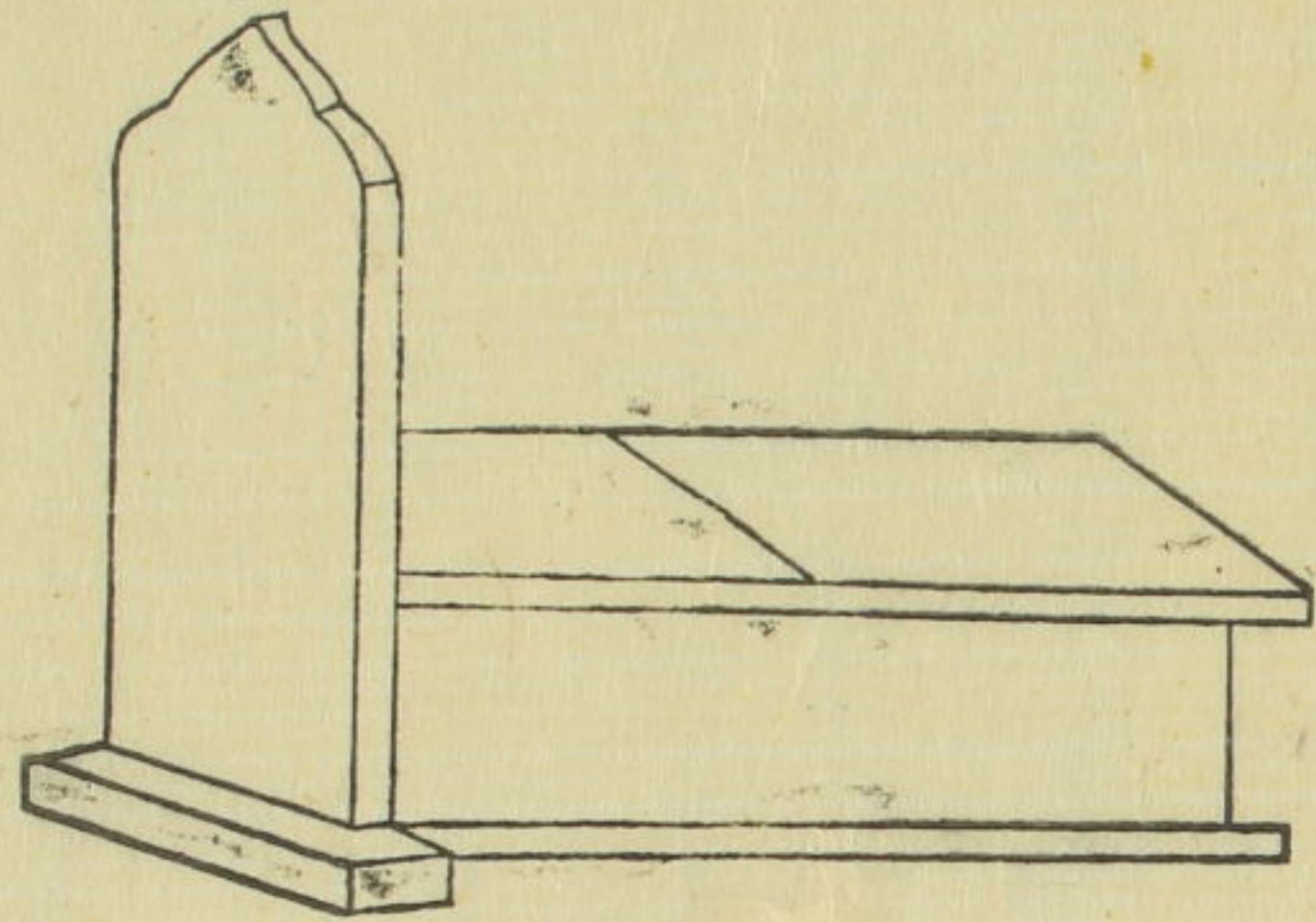


喪礼

土

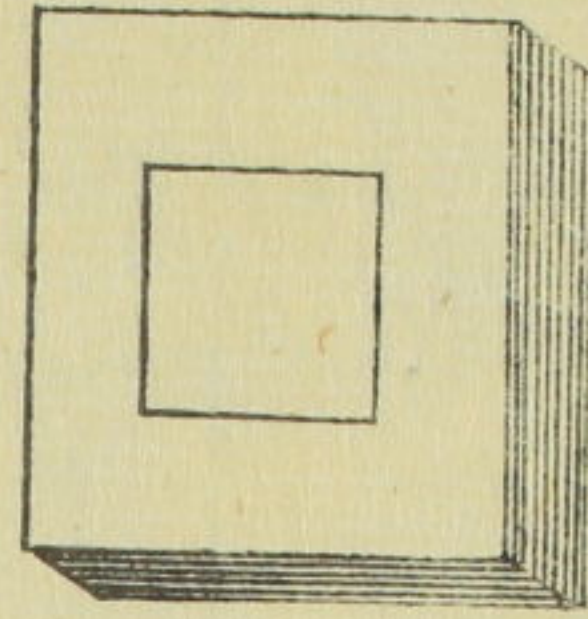
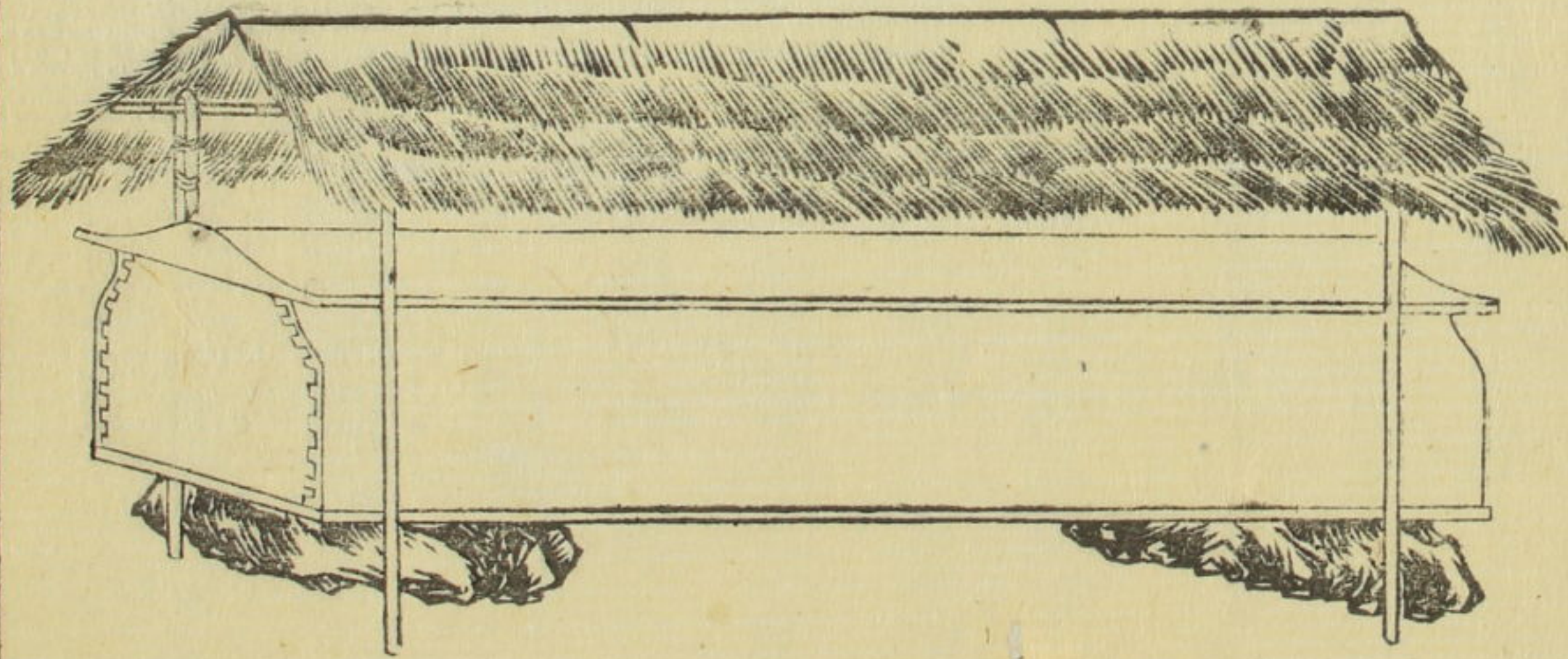
北
域



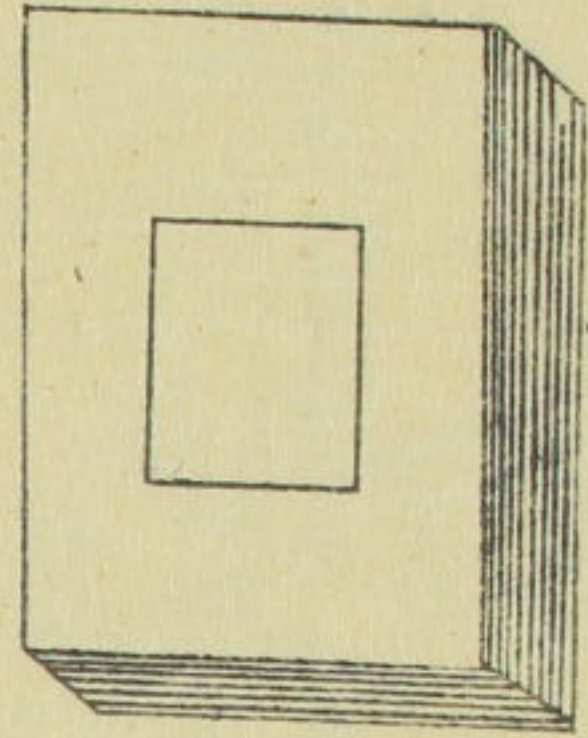


墳墓ホ

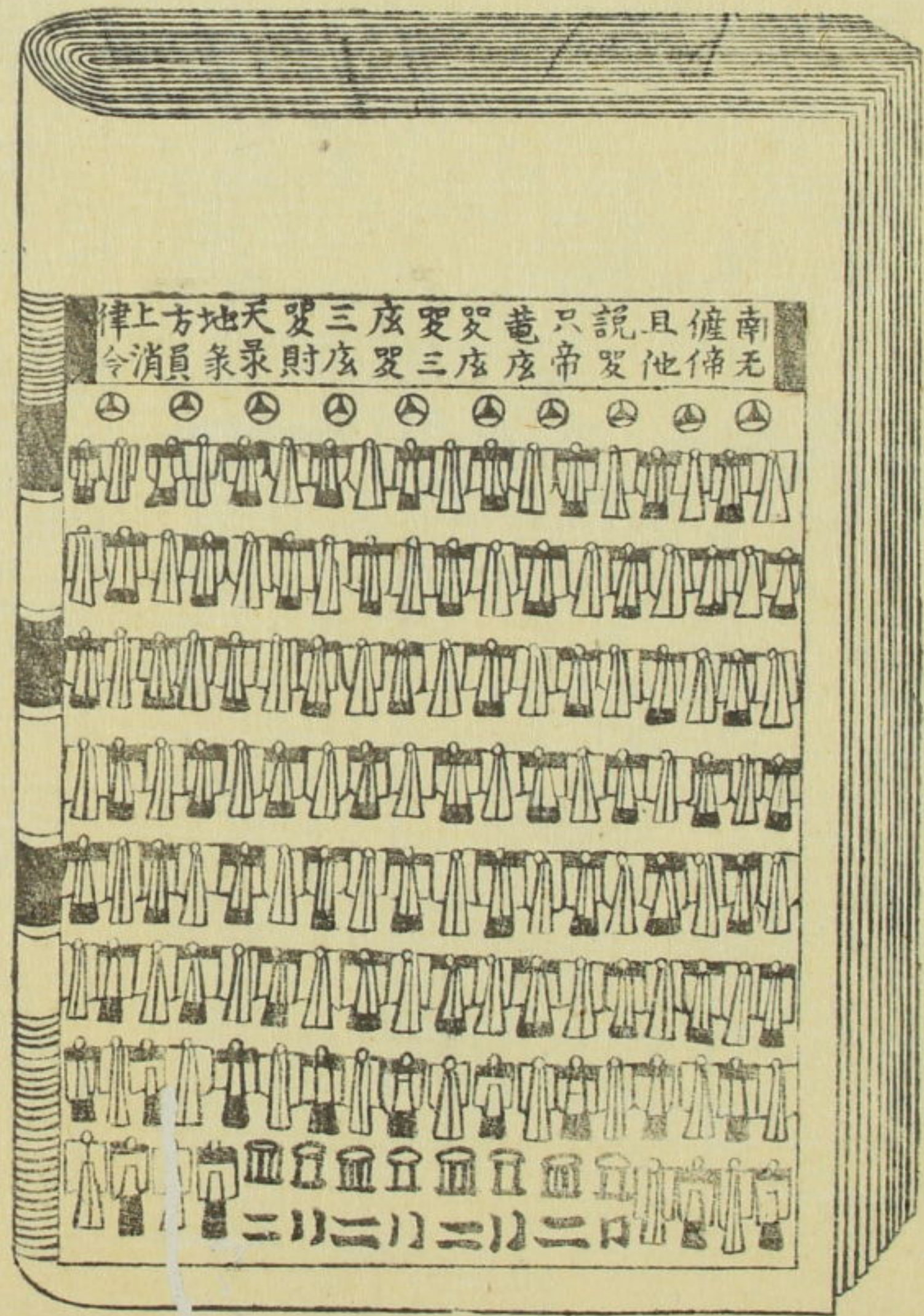
權厝ケンツウ



大金紙オウゴン



眞衣紙マコトイシ

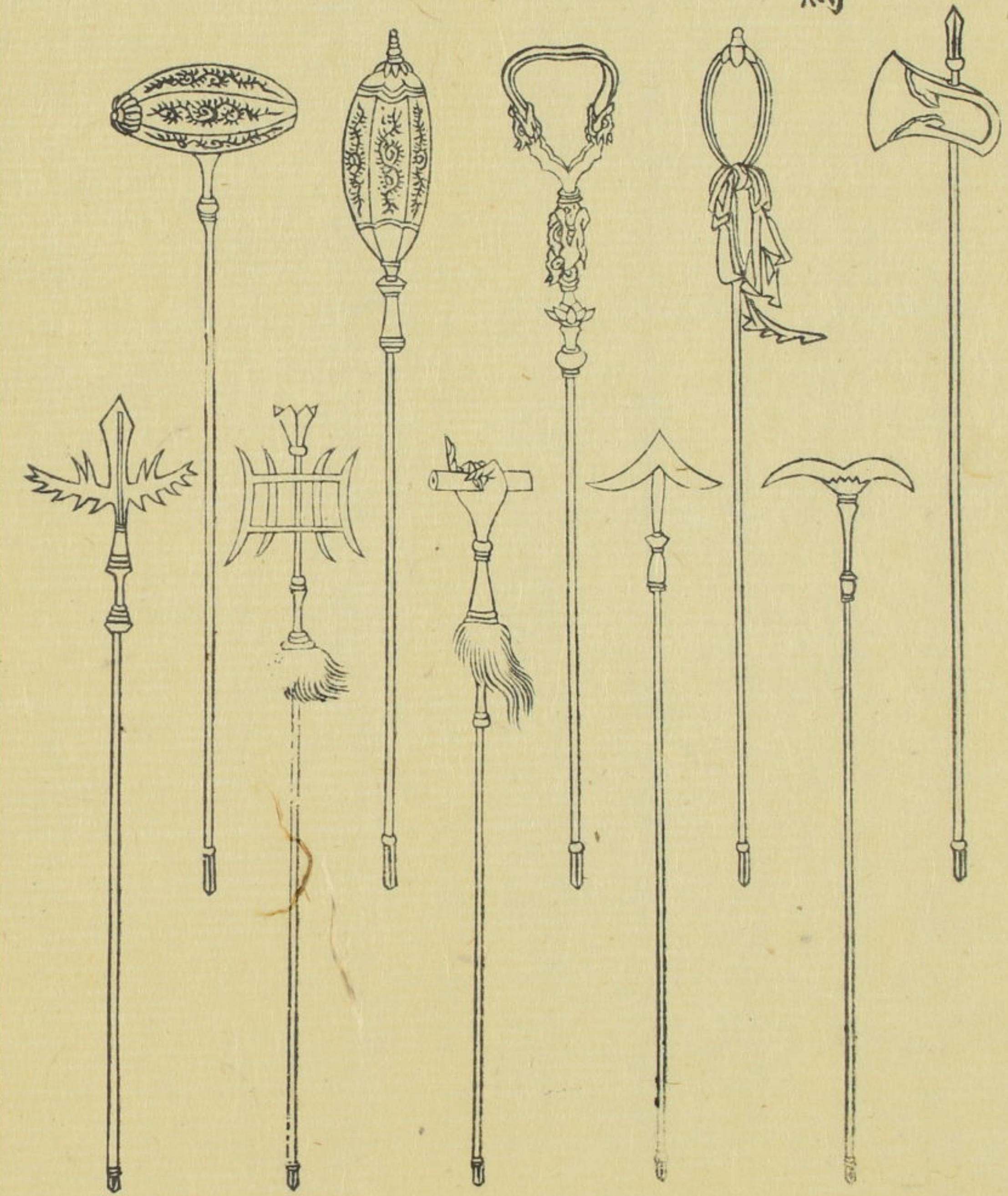


律上方地天嬰三成嬰哭菴只説且儼南
令消員衆衆財成嬰三座座帝嬰他儻无

○父母の喪退五十日過て朋友など小勝中尋問の挨拶うてよふ事あり
 紅唐紙の帖小枚名の布小青と紙をかき門口より取次の者代打と挨拶
 扱を速く主人出て面會せし中ゆも懇懇の方ゆり入て面會すも有
 ○斬衰齊衰大小切の服ある時他人小書籍を遺す時ハ期年の喪も
 期某と書大切の小切某と書小切の小切某と書印肉と黒印肉を用ふなり
 ○改葬の古吉日代選り墓所小二牲ありび小諸供物を備へ酒を奠り
 金銀紙冥衣紙を燒き後棺を掘出し紙取敷更若損く等あり六八取
 箔ハ調へ改葬の墓所へ持行法のまゝ安葬以其上ハ石碑を建
 畢りて眞供あり同ハ石碑ハ新小建留ふあり元の石碑を用ふも
 あり格別の損く等あり是れをたすべてゆやの石碑を用ふ
 ○喪を除けて後忌日ハ正當忌日むらと家廟へ供へ物をうて酒を奠り

香燭を點し祭奠す年忌ハ週年三年十年二十年三十年四十年
 五十年百年二百年と吊ふ此法會小僧道を請り誦經ゆふも僧道
 を請せぬあり等ハ及故人の生日に家廟小備物眞酒等して祭奠す
 是を眞期と云ふ凶儀ハ是を掛祭眞以備物ハ年忌眞期もハ葦を備ふ
 ○極貧下賤の者ハ諸道具揃へ在に入棺せむ美昂日間小合ふ時ハ二三日
 を経く入棺せむも有たふ父母の喪もも勸ふ事能らふ即日送葬して
 羽三日より高賣或は産工等小出給 ○初死の眞ありび改葬するもゆりて
 の祭属纏等の類は来たり ○先祖知府以上の官小出給るも又
 賢徳多て朝廷より優格あり強り只級免許を受ふ者の子孫ハ
 執事とて錫めり鎗鋒等ハ形を造りて小道具代送喪の行列子
 持事あり ○凶服の葦 國家の御言葉ありび小御祭禮等小携

變駕 一名 執事



ふ事を得て親類朋友等より吉事祝宴等の哀請せしむ時ハ五十
 日外あれば素服や帽子の赤熊を付く行 ○ 吊客ハ初死より殯
 所より退くは返りに来るまで香燭を持事も也 ○ 茶の喪又喪重時ハ
 其行位も随ハ後の喪も勤事也 ○ 聞忌の節ハ父母の喪より凶信を聞
 くと多日と定の日殺喪成勤也其余の親族ハ喪の日殺の内止ハ残日
 日數喪を勤免日殺満ふ後ハ少くも喪成勤也
 ○ 喪の内み子を生じたる時ハ宴を設き行 ○ 官人ハ小官ありやも
 父母の喪ハ官成辭也 ○ 喪を除くも式あり
 ○ 三年の喪ハ病を回幸苦く加ふ

清俗紀聞卷之十一

喪礼

